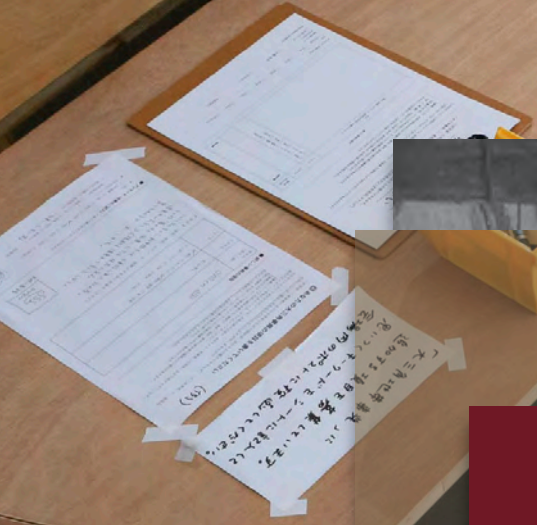


生活

工房

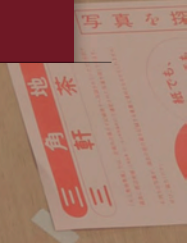
アニユアルレポート2025



CARD

三軒茶屋

ENCYCLOPEDIA



APRIL 2025



MARCH 2026

LIFESTYLE
DESIGN CENTER
ANNUAL REPORT

2025

The crossroad of life and design.

In an age overflowing with things and information. Lifestyle Design Center illuminates the intangible as well as the tangible, paying attention to small stories. Through the experience of seeing, touching, and sensing, we ask: what is true abundance, what is culture? We value the creation of a space for dialogue, to touch on the roots of life and ask each other why.

暮らし×デザインの交流拠点

物や情報が溢れる時代。生活工房は「モノ」だけでなく「コト」に光をあて、小さな物語に耳を傾けます。観たり、触ったり、感じたりする体験を通して、本当の豊かさや、大切にしたい文化をともに考える場をつくります。暮らしの根っこに触れること、なぜだろうと考えること、対話することを大切にしています。



展覧会 | Exhibition

新たな発見が暮らしを彩る

New Discoveries Embellish Daily Life

生活工房ギャラリーやワークショップルームでは、デザインやクラフト、異文化など多角的なテーマで展示を実施しています。

Exhibitions on diversified themes such as design, crafts, and foreign cultures are held in the Seikatsu-Kobo Gallery and the Workshop Rooms.

ワークショップ | Workshop

多彩なモノづくりを楽しむ

The Joy of Making Things

参加者が手や体を動かしながら「考え」「つくる」ワークショップでは、子どもから大人までが楽しめる多彩なプログラムを実施しています。

A variety of programs are held where participants of all ages can move their hands and bodies as they enjoy "think" and "make" workshops.



セミナー | Seminar

社会を知る、学びを楽しむ

Understanding Society, Enjoying Learning

専門家やクリエイターを招き、暮らしや文化に関する生きた言葉に触れるさまざまな講演やトークイベントを実施しています。

Experience living words on life and culture in various lectures and talk events given by specialists and creators.



地域と市民活動 | Local Community

地域とつながる

Connecting with the Region

地域の活動と交流を支援し、多様な価値観や共感の輪を広げ、ネットワークを構築し豊かな地域づくりのお手伝いをしています。

We assist with region-building by supporting area and regional activities and exchange, widening the circle of various values and sympathies, and creating vibrant networks.



生活工房の一年

春

4月21日～4月20日

PART OF THE ANIMAL 動物と人間のあいだ

4月29日～8月11日

ヘアカラー展 なぜ染める、なぜ染まる。

Exhibition

6月21日

共催事業 遊べ！大人たち
「冒険遊び場」雑居まつり「自主保育」ともに歩んだ50年

Local Community

夏

8月5日～8月11日

せたがやアートファーム2025 セーかつぶれふれこーぼー

Workshop / Seminar

8月19日～12月28日

戦後80年企画・春日明夫コレクション
子どももの時代 ―戦前・戦中・戦後 子どもをめぐる昭和の暮らしと文化展

Exhibition

8月20日～8月22日

第24回おはなしいっぱい

Local Community

秋

9月27日

昭和100年にみるホームムービー

Workshop / Seminar

10月11日～10月12日

RISO WORKSHOP リソグラフィでZINEをつくる

Workshop / Seminar

11月8日

共催事業 世田谷線貸切朗読会「つむじ風食堂の夜」

Local Community

11月9日・11月15日・11月16日・12月13日

日常を見限らない 味覚のワークショップ

Workshop / Seminar

冬

1月18日・2月15日

老人性アメイジング！ Vol.3 寿ぎと尊厳

Workshop / Seminar

1月20日～3月22日

三軒茶屋 大三角地帯展 ―ひらま、ひもたく記憶と記録―

Exhibition

通年

- 市民活動支援コーナー

Local Community

- 生活工房アレコレ2025 8ミリフィルム常設上映

Exhibition

- 穴アーカイブ：an-archive セたがやアカカブの会

Local Community

- 穴アーカイブ：an-archive エトセトラの時間 見えるものと見えないものを語る会

Local Community

- ちかくのこーく

Local Community

- コロナ禍のこーく

Local Community

2025

2026

生活工房とは？
生活工場の事業
生活工場の1年

02

展覧会

ヘアカラー展 なぜ染める、なぜ染まる。
戦後80年企画・春日明夫コレクション
子どもの時代 「戦前・戦中・戦後」子どもをめぐる昭和の暮らしと文化展
三軒茶屋 大三角地帯展 「ひらき、ひもとく記憶と記録」
生活工房アレコレ2025 8ミリフィルム常設上映

06
08
10
12

ワークショップ／セミナー

PART OF THE ANIMAL 動物と人間のふれあいのワークショップ
動物とふれる、つくる、えがく
せがやアートファーム2025 せーかつぶれふれこーぼー
昭和100年にみるホームムービー
RISO WORKSHOP リソグラフでZINEをつくる
日常を見限らない 味覚のワークショップ
老人性アメイジング！ VOL.1 春さと華厳

14
16
18
19
20
22

地域と市民活動

市民活動支援コーナー
ちかくのこーく
第24回おはなしいっぱい
次アカイフ:an-archive
せがやアカカブの会
エトセトラの時間 見えるものと見えないものを語る会
共催事業
遊べ！大人たち 「冒険遊び場」「雑居まつり」「自主保育」ともに参った50年
世田谷線貸切朗読会「つむじ風食堂の夜」
コロナ禍のこと

24
26
27
28
29

広報事業
フライヤーギャラリー
施設ガイド
数字で見る生活工房

30
31
38
40

ヘアカラー展

なぜ染める、なぜ染まる。

戦後80年企画・春日明夫コレクション

子どもの時代

「戦前・戦中・戦後」子どもをめぐる昭和の暮らしと文化展

三軒茶屋

大三角地帯展

「ひらき、ひもとく記憶と記録」

生活工房アレコレ2025

8ミリフィルム

常設上映

Exhibition

Exhibition

展覧会

展覧会



3



2

関連企画

なりたい髪色になる

ヘアカラーとのつきあい方

開催日時 7月6日(日) 14:00~15:00

会場 ワークショップルームAB

講師 伊熊奈美(美容ジャーナリスト/
毛髪診断士 指導講師)

参加人数 41名

参加費 1,000円

親子向けワークショップ

ヘアカラーでストラップをつくろう

開催日時 7月20日(日)

①11:00~12:30

②15:00~16:30

会場 ワークショップルームA

講師 梶原秀一(ホーユーヘアカラー
ミュージアム館長)

参加人数 31名

参加費 500円

ヘアカラー展

~なぜ染める、なぜ染まる。~

開催日時 4月28日(月)~8月31日(日)

会場 ホーユーヘアカラーミュージアム
(愛知県名古屋市内)



5



4



7



6

- 1 明治期、発売開始当時の酸化染毛剤
- 2 明治期、発売開始当時の酸化染毛剤
- 3 クリーム、ムース、スプレータイプ等、現在の商品は形態もさまざま
- 4 会場風景
- 5 4つの染毛の仕組みを模型で解説
- 6 伊熊奈美氏によるトーク*
- 7 人工毛を染色してストラップを作った*

撮影：高見知香(※の写真を除く)

60代の声

日常的でありながら
よく知らない事象を歴史的に
検証するのは面白い。



「どう染めるか」は、「どうして染まるか」で決まる

「人はなぜ髪を染めるのか、髪はどうして染まるのか」という素朴な疑問をきっかけに、髪染めの歴史とメカニズムについて考察した展覧会。

白髪を隠す目的から、さまざまな手法を駆使した髪色とスタイルによって、個性や自分らしさを表現するファッションツールへと変容し、今や、老若男女を問わず自己表現や日常における変化を楽しむ重要な要素になっている。

多彩な表現が可能になった背景には、染毛剤開発の歴史があった。驚くべきことに、染髪の基本となる化学原理は、染毛剤が誕生した時からほとんど変わっていない。この原理を活かしながら、いかに髪を傷めず、身体に影響なく安全に、かつ簡便に美しく染髪できるかの試行錯誤が染毛剤開発史の核心。真っ黒に染めるのみの白髪染め、茶髪にできるだけの脱色から、色数が増え、部分染めが可能になるなど、染毛剤と施術の進化によって時代のトレンドも変化し、髪質や目的に合わせた選択ができる現在のラインナップに至るまで、ヘアカラー文化は染毛剤の進化と両輪で歩んできたのである。

開催日時 2025年4月29日(火・祝)~8月1日(月・祝)

9:00~21:00(祝・休日を除く月曜休み)

会場 生活工房ギャラリー

来場人数 37,737名

協力 日本ヘアカラー工業会

特別協力 ホーユーヘアカラーミュージアム

広報物デザイン・会場グラフィック 松田洋和

イラスト ridawo

ヘアカラー展

なぜ染める、なぜ染まる。



4



3

昭和という時代を生きぬいた、かつての子どもたち

終戦80年、世田谷区平和都市宣言から40周年を迎える2025年に「子どもの暮らし」と「平和」について考える展覧会を開催した。

本展監修の春日明夫氏は、日本における造形美術教育、キッズデザイン研究の第一人者であり、教材として世界中の玩具や関連資料を収集し、子どもたちの暮らしと社会動向の検証を行うことを重要な研究テーマとしてきた。

会場には明治、大正、昭和の戦前、戦中、戦後、高度経済成長期に渡る、子どもの玩具や雑誌、双六や教材など約450点を展示。その中でも、子ども文化が萌芽を迎えた大正時代の後、戦前・戦中にかけての資料には、徐々に子どもの暮らし・遊びの中にも「戦争」が浸透していった様が、まざまざと映し出されていた。また戦時下の向井潤吉の戦争画を表紙にした雑誌、戦後の佐藤忠良の平和紙芝居など、世田谷ゆかりの画家の貴重な資料も紹介した。これらの実物資料は、戦時下にアートやデザインの力が戦意高揚に利用された事実や、当時の作家たちが制約の中でぎりぎりの工夫をしながら表現した苦悩を、私たちに伝えてくれた。



6



5



7

- 1 時代を映す双六25点を展示
- 2 子どもの兵隊の陶器人形
- 3 「銃後」として女性や子どもも戦争に扇動された
- 4 戦後、和製のヒーロー・ヒロインが大人気になった
- 5 展示物の双六にちなんだサイコロづくりワークショップ*
- 6 春日明夫氏による講演会*
- 7 菊池好江氏による紙芝居「平和のちかい」の上演*

撮影：高見知香（※の写真を除く）

60代の声

生活者の目線で
大切なことを伝えている。



1

関連企画

セミナー「昭和の子どもの暮らしと文化
〈デザイン・美術・教育の視点から〉」

開催日時 11月2日(日) 14:00~15:30

会場 ワークショップルームA

講師 春日明夫(芸術学博士/東京造形大学名誉教授)

参加人数 23名 参加費 500円

すごろくあそびば

開催日時 11月2日(日)、3日(月・祝) 11:00~17:00頃

会場 ワークショップルームB

参加人数 45名 参加費 無料

アートなサイコロをつくって、昭和のすごろくであそぼう!

開催日時 11月3日(月・祝)

①13:00~14:30 ②15:30~17:00

会場 ワークショップルームA

参加人数 15名 参加費 500円

開催日時 2025年8月19日(火)~12月28日(日)
9:00~21:00(祝・休日を除く月曜、11月9日休み)

会場 生活工房ギャラリー

来場人数 42,586名

協力 春日明夫、

せたがや未来の平和館(世田谷区立平和資料館)、

昭和のくらし博物館、造形教育センター

広報物デザイン・会場グラフィック Knot for, Inc.



2

戦後80年企画・春日明夫コレクション

子どもの時代

—戦前・戦中・戦後 子どもをめぐる昭和の暮らしと文化展



6



5

三軒茶屋の過去・現在・未来

次の30年につなげていきたい。

本展で集まった言葉と写真は本誌の特集をご覧いただきたい。開館30年を間もなく迎える生活工房も、大三角地帯の端くれである。ここで集まった記憶と記録、交流を

ら写真や資料を預かった。

土曜日は大三角編集部が在廊し、来場者から写真や資料を預かった。

本展で集まった言葉と写真は本誌の特集をご覧いただきたい。開館30年を間もなく迎える生活工房も、大三角地帯の端くれである。ここで集まった記憶と記録、交流を

生活工場の事業報告書「アニユアルレポート」では、2022年から継続して「三角地帯」を取り上げた特集記事を掲載している。三角地帯とは、玉川通り（国道246号）と世田谷通り（都道3号）が交差して生まれた三角形のエリアを指す。2023年からはフィールドワークや聞き込みも行い、闇市の面影を残す風景や営みの記録を試みてきた。

展示会場も、三角地帯の建物などをサンプリングして構成。これまでのリサーチをまとめた「大三角地帯事典」と「大三角地帯マップ」が路地の合間に設置され、来場者が残した事典の項目やメモで、それぞれ改訂されていく。さらに会場内には写真や映像資料、関連書籍も並ぶ。会期中の毎週土曜日は大三角編集部が在廊し、来場者から写真や資料を預かった。

- 1 会場風景。じっくり滞在する鑑賞者も
- 2 三角地帯をヒントに構成された会場
- 3 お酒もふるまわれた「酒場の話を聞く」イベント
- 4 「三角地帯を歩く」ではマーケットや市場の跡地にも
- 5 会場内でもワークショップを開催。写真は「会場を作る」
- 6 大三角地帯マップに貼られていく付箋



1

関連企画

酒場の話を聞く | 酒場にまつわるトーク
 開催日時 1月25日(日) 17:00~19:00
 会場 生活工房 ワークショップルームB
 講師 パリッコ(酒場ライター) 塩見なゆ(酒場案内人)
 参加人数 51名
 参加費 1,000円

三角地帯のルーツを知る | 闇市にまつわるトーク
 開催日時 2月5日(木) 19:00~21:00
 会場 ワークショップルームB
 講師 石博督和(関西学院大学建築学部准教授/中央研究院臺灣史研究所訪問学者) 金谷匡高(法政大学江戸東京センター客員研究員/昭和女子大学歴史文化学科非常勤講師)
 参加人数 30名
 参加費 1,000円

会場を作る | 三角地帯でエレメントを探す
 開催日時 2月14日(土) 14:00~16:00
 会場 生活工房ギャラリー
 講師 荒木源希(建築士/モクタンカン株式会社)
 参加人数 5名
 参加費 500円

写真を集める | ファウンドフォトワークショップ
 開催日時 2月21日(土) 13:00~15:00
 会場 生活工房ギャラリー
 進行 篠原萌(TISSUE Inc. 編集者)
 ゲスト VIDEOTAPEMUSIC (ミュージシャン/映像作家)
 参加人数 2名
 参加費 無料

自分史をひもとく | 年表+事典ワークショップ
 開催日時 1月31日(土) 13:00~15:00
 会場 生活工房ギャラリー
 講師 パンス(年表作成者/ライター)
 参加人数 11名
 参加費 無料

三角地帯を歩く | 古地図でめぐる三角地帯
 開催日時 2月7日(土) 13:30~15:30
 集合場所 生活工房ギャラリー
 講師 男鹿芳則(前世田谷トラストまちづくり理事長) 金谷匡高(法政大学江戸東京研究センター客員研究員/昭和女子大学歴史文化学科非常勤講師)
 参加人数 11名
 参加費 500円

写真を集める | 29年後のファウンドフォト
 開催日時 2月21日(土) 11:00~13:00
 会場 生活工房ギャラリー
 進行 篠原萌(TISSUE Inc. 編集者)
 ゲスト VIDEOTAPEMUSIC (ミュージシャン/映像作家)
 参加人数 5名
 参加費 無料

日記を書く | 日記ワークショップ
 開催日時 3月7日(土) 18:00~21:00
 集合場所 生活工房ギャラリー
 講師 金川晋吾(写真家)
 参加人数 17名
 参加費 1,500円



4



3



2

三軒茶屋 大三角地帯展

—ひらき、ひもどく記憶と記録—

開催日時 2026年1月20日(火)~3月22日(日) 9:00~21:00(祝・休日を除く月曜休み)
 会場 生活工房ギャラリー
 来場人数 46,126名
 企画制作 TISSUE Inc.、大三角編集部(大澤景、竹中万季、シャロポア野口)
 協力 三軒茶屋エコー仲見世商店街
 展示協力 株式会社トーハン
 広報物デザイン・会場グラフィック 北岡誠吾
 会場設計 モクタンカン株式会社

ワークショップ セミナー

Workshop / Seminar

Workshop / Seminar

ワークショップ / セミナー

Vol.3

老人性アメイジング！

日常を見限らない

RISO
WORKSHOP

昭和100年にみる
ホームムービー

せーかつ
ふれふれこーぼー

動物とふれる、
つくる、えがく

PART OF THE ANIMAL 動物と人間のあひだワークショップ

せがやアートファーム2025

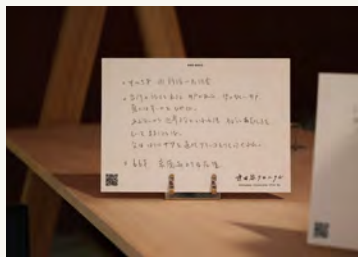
リンクラフでZINEをつくる

味覚のワークショップ

春の専断



1



2



4



3

(あ)生活工房アレコレは、展示会に含めることができなかつた資料(テレ)や、生活工房のバックヤードに眠っているアーカイブ(コレ)を常設で紹介する小コーナーである。コロナ禍の2021年4月から階段下で展開している。

(イ) 母がニッポン映画9年1936年9月9日、青島の早稲小産子、新島出身です。戦争になったのが残念。

(ロ) 当時、日本の活版、日本人の身体能力、体幹、大島にもさん椅子はなく「はげ」だつたと、下駄のすべり台には驚き、日曜にも驚き、伊豆のオオ入のトコはほうが、竹藪ではなすそう、毎手カラダいたら海があさゆめであ、たろうとと想像しました。母が夏にたてあ、らう見景=会え失敬す、

(ウ) 57歳 世田谷区 世田谷区立図書館

5

8ミリフィルムと、昭和のアレコレ

「生活工房アレコレ」は、展示会に含めることができなかつた資料(テレ)や、生活工房のバックヤードに眠っているアーカイブ(コレ)を常設で紹介する小コーナーである。コロナ禍の2021年4月から階段下で展開している。

昨年度に引き続き、ウェブサイト「世田谷クロニクル」[28頁]で公開中の8ミリフィルム映像を常設で上映。ラインナップは、1936(昭和11)～1981(昭和56)年にかけて撮影された12巻。各映像の撮影月にあわせて、毎月8日に映像を入れ替えながら通年で展示了。撮影場所も幅広く、二子玉川園や皇居周辺、伊豆大島、ロサンゼルスなど、国外にまでおよんでいる。

会場では、来場者が映像をきっかけに思い出したエピソードを募った。「動物も子どもたちも戦争のために奉公させられる」「映画でも観ているみたい」「台所のうら口を出ると井戸があった」など、多くの声が寄せられた。2025年秋にリニューアルしたウェブサイトでも、集まった言葉を公開している。

生活工房アレコレ2025

8ミリフィルム
常設上映

開催日時 2025年4月8日(火)～2026年4月7日(火)
9:00～21:00(祝・休日を除く月曜休み)
会場 生活工房ギャラリー
来場人数 75,471名 ※3月31日時点
企画制作 remo [NPO法人記録と表現とメディアのための組織]
広報物デザイン Tanuki



3



2



5



4



6

ワークショップ「動物とふれる、つくる、えがく」
開催日時 4月12日(土) 13:00~17:00、4月13日(日) 10:00~15:30
会場 ワークショップルームAB
講師 石倉敏明(人類学者)、永沢碧衣(アーティスト)、
 西澤真樹子(なにわホネホネ団 団長/大阪市立自然史博物館外来
 研究員)、長谷川朋広(ゲームクリエイター)、盛口満(作家)、
 山口未花子(人類学者)
協力 渡邊晃寛(なにわホネホネ団)
参加人数 80名
参加費 ①3,000円(2日間通し参加) ②1,000円(4月12日のみ参加)

このワークショップは、下記展示の関連イベントとして開催した。

PART OF THE ANIMAL 動物と人間のあいだ
開催日時 2025年1月21日(火)~4月20日(日)
 9:00~21:00(祝・休日を除く月曜休み)
会場 生活工房ギャラリー
来場人数 28,117名 ※4月1日~4月20日
企画制作 山口未花子、石倉敏明、丹羽朋子
参加アーティスト・研究者
 五十嵐大介、大石侑香、大小島真木、小田隆、ケイトリン・コーカー、
 鴻池朋子、齋藤亜矢、菅啓次郎、菅原和孝、竹川大介、長坂有希、
 永沢碧衣、西澤真樹子、根本裕子、長谷川朋広、盛口満、吉田ゆか子
協力 ArtSticker、大平農園、北秋田市くまぐま園、
 行山流舞川鹿子躍、ジミー・ソウシアラ、日本モンキーセンター、
 福島県立相馬高校放送局、星先こずえ、峰岸有紀、
 吉岡養蜂園、渡辺宏(株式会社ビーハイブジャパン)

関連企画協力
 JSPS学術知創プログラム「身体性を通じた社会的分断の超克と多
 様性の実現」、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹
 研究人類学「社会性の人類的探究：トランスカルチャー状況と寛
 容/不寛容の機序」、東京外国語大学フィールドサイエンスコンズ
 (TUFISCO)

広報物デザイン・会場グラフィック 鈴木哲生

30代の声

人と動物の間というテーマを
 正面から扱ったイベントに感動しました。
 このような取り組みがより
 多くの人に届けばいいと思います。



1

「PART OF THE ANIMAL 動物と人間のあいだ」は「動物をえがく」ことについて、人類学・生物学・比較文学の研究者たちが世界をフィールドにおこなった調査や、アーティストたちの思索・作品とで構成した展覧会である。その関連イベントとして2日間に渡るワークショップを、「さく」「みる・ふれる」「つくる」「共にする」・「深める」をキーワードに開催した。動物の骨のこと・なぜ人は動物をえがくのかを考察するレクチャーに学び、ヌートリアの標本づくりを観察。そして、動物から生成した画材で動物をえがくこと、動物の骨から新たな造形・生き物を考える工作、シカ皮のなめし体験と小物づくりを体験した。参加者からは「生きていた動物との関係性を思い出した」「つくること＝吊いのよう」「絵の具に命が入っている」「毛皮が怖かったが毛皮と仲直りできた」などの感想の声があり、五感を通して体感・実感し、動物と自分との関係性を深く思考する時間となった。

動物とふれる、自らの感覚をひらく

PART OF THE ANIMAL
 動物と人間のあいだ ワークショップ

動物とふれる、つくる、えがく

- 1 展覧会場風景
- 2 ゲッチョ先生(盛口満氏)による骨のレクチャー
- 3 げっ歯類の標本づくりを見学
- 4 さまざまな動物の骨から新たな生き物を創造してみる
- 5 動物の毛皮に触れてみる
- 6 クマの血などを焼成して画材を生み出す



4



3



5

あそんだり、ぼーっとしたり

生活工房4階を会場に、バックヤードに余る資材を放出した本企画。これまでに開催した展覧会やイベントの余り物が何かしらの工作物へと消えていく。招へいたアーティストらも「よくわからない大人」として、会場で自由に過ごす。

会場内でのルールもゆるい。食事も自由にとることができ、自作のおにぎりを持参する子どもらの姿もあった。期間中にはさまざまなコツ（たとえば、ノコギリと一緒にクランプを貸すべきかどうか）など知恵が生まれ、ノウハウとして共有されていった。また来場者は口コミで日ごとに増える。皆勤賞の小学生2人をはじめ、リピーターは50人以上。「お客さん」から「常連さん」「ぼぼスタッフ」へ、役割の変化もしみじみおもしろい。

自分の責任で自由に遊ぶ。このモットーを掲げるプレパークせたがやには、運営や会場についてアドバイスを、世田谷パブリックシアターには広報と会場設営に協力いただいた。短い期間ながら、生活工房に「場」をつくる可能性も拓いた企画となった。

小学3年生の声

寝るテントも
プラ板も
全部楽しかった。



1

- 1 最終日の参加者数は160名
- 2 絵の具やシルクスクリーンをあつかう「みずば」
- 3 素材の置き場所「いわば」も作業場に
- 4 さっそく賑やかな初日
- 5 画材が埋まっている「すなば」。最終日の様子

撮影：高田洋三

開催日時 2025年8月5日(火)～8月11日(月・祝)
11:00～16:00

会場 ワークショップルームAB

参加作家 靴郎堂本店(アーティスト)、
椎木彩子(画家/絵本作家)、
村上慧(アーティスト)、
もっとうい状態!(シルクスクリーン)

よくわからない大人
大貫友瑞、サワダヨシキ、古山結

広報物デザイン・会場グラフィック
小林すみれ

設計 板坂留五 (RUI Architects)

施工 有限会社プランニング・アート

対象 小中学生(大人参加可)

参加人数 682名

参加費 1DAYパス500円/なんどでもパス1,000円

協力 認定NPO法人プレパークせたがや



2

せたがやアートファーム2025

せーかつ ふれふれこーぼー



1



2

30代の声

皆で一冊を作れて、自分だけでなく他の作品も知ることができて新たな発見があった。



3



4



5

- 1 出来上がった作品を紹介する様子
- 2 刷りたてのリソグラフ
- 3 講師のアドバイスを受ける参加者
- 4 ZINE制作の様子
- 5 お茶を飲みながら作品を共有する

予想できない美の世界

世界のアートシーンで注目を集め、名刺やZINE、フライヤーなど、気軽にお洒落に自分を表現する方法として流行しているリソグラフ。昨年に続き、リソグラフのスタジオを運営する Hand Saw Press の方々を講師に迎え、ワークショップを開催した。

ワークショップでは、リソグラフ印刷の仕組みや表現手法を学んだ後、じっくり時間をかけて自分を表す、詩・エッセイ・絵・写真など色々な素材をレイアウトして2色刷りのミニポートフォリオを印刷し、みんなで1つのZINEを制作した。

独特な懐かしい風合いがあり、多色刷りの複雑な表現ができるリソグラフは、「ズレる」「かすれる」「混色する」など、想定外の美しさに出会う。

最後に、綴じられたZINEを一緒に開きながら、各々の作品を発表し合った。ページを開く度に、そんな表現もあるのかと驚きの声が上がリ、それぞれの関心事や創作背景に心打たれる特別な時間となった。

※「リソグラフ」®は理研科学工業株式会社の登録商標または商標です。【登録商標第253695号】

RISO WORKSHOP

リソグラフ®でZINEをつくる

開催日時 2025年10月11日(土)、12日(日)
①10:30~13:30 ②15:30~18:30 (各日各回完結)

会場 市民活動支援コーナー

講師 Hand Saw Press

対象 10代以上

参加人数 46名(4回合計)

参加費 2,000円

広報物デザイン FU

40代の声

80年後の人たちが、今のあふれる動画をアーカイブとして受け取った時にどう思うのかも思いました。



2



1



5



4



3

- 1 『消えゆく玉電』を鑑賞するふたり
- 2 映像を鑑賞しながら話す
- 3 左：滝口悠生氏、右：松本篤氏
- 4 会場の様子
- 5 滑走台をすべる『あこがれの大島へ』名シーン

たとえば草がどんな風に生えているか

2015年にスタートした「穴アーカイブ」[28頁]が、プロジェクト開始から10年目を迎えた。これを機に、以前からウェブサイトに「世田谷クロニクル」に関心を寄せていたという小説家の滝口悠生氏を迎えて、映像の鑑賞会とトークイベントを開催した。

事前に選んでいた映像から、最初に鑑賞したのは『あこがれの島へ』(昭和11年)。八丈島出身で、祖母の出身地の硫黄島を舞台にした小説『水平線』もある自身の経験を踏まえながら、スクリーンに映る「頭に荷物を載せて運ぶ人の姿」や「地面から草がどんな風に、どのくらいどの量で生えているか」といったディテールに注目する。生活の記録は公的な史料には残っていない点も多く、また文字資料のみから想像することも難しいという。

今回は音声付きの8ミリフィルムも鑑賞。映像の後ろで聞こえる「音」がもたらす「空間のリアリティ」など、話題は多岐にわたった。会場質問にも答えながら、記録と記憶、創作をめぐる対話がつづいた。

開催日時 2025年9月27日(土) 14:00~16:00

会場 ワークショップルームB

ゲスト 滝口悠生(小説家)

進行 松本篤(remo/AHA!世話人)

来場人数 38名

参加費 500円

昭和100年にみる ホームムービー



4



3



5

- 1 西欧のフードアート事情について語る関口涼子氏
- 2 匂いを移したバターを試食する
- 3 記憶に残る味を持ち寄り共有するワーク
- 4 食べ物のインタビュー
- 5 日本料理の精神性について語る伏木亨氏

40代の声

日常で頭の隅に追いやってしまう
食や味覚のちょっとした違和感や
疑問を人とシェアすると心が豊かになる。
ずっと覚えていたい感覚。



2



1

言葉と巡る味覚の冒険

日常の中で見落とされた無数の出来事を、研究者やアーティストと共に五感を使って味わい直すトーク&ワークショップ・シリーズ第5弾。今回は、「味覚」をテーマに開催した。

「味覚と芸術」
味覚や匂い、触覚などの五感にフォーカスした文学や芸術作品を手掛けるフランス在住の著述家・翻訳家の関口涼子氏が、西欧の美術館でシェフや芸術家と開催したフードアート・ワークショップの事例を紹介した。

「言葉と巡る味覚の冒険」
言葉によって多様に変化する不思議な味わいに関する講義の後、匂いを移したバターを試食して素材を想像したり、カラフルなタコスを食べた感覚をインタビュール合うワークなどを行った。最後は、人生で記憶に残る味を持ち寄り、各々のエピソードを語り合った。

「味覚の世界」
食品・栄養化学の専門家である伏木亨氏が、日欧料理の文化を比較しながら、美味しさを感じるメカニズムや出汁やココの奥深い世界について解説した。

Talk1

味覚と芸術

開催日時 2025年11月9日(日) 14:00~16:00
会場 ワークショップルームAB
講師 関口涼子(著述家/翻訳家)
対象 10代以上
参加人数 66名
参加費 2,000円

Workshop

言葉と巡る味覚の冒険

開催日時 2025年11月15日(土)、16日(日)
13:00~17:00(各回完結)
会場 ワークショップルームAB
講師 関口涼子(著述家/翻訳家)
対象 10代以上
参加人数 32名(2回合計)
参加費 3,000円(試食込)

Talk2

味覚の世界

開催日時 2025年12月13日(土) 14:00~16:00
会場 ワークショップルームAB
講師 伏木亨(和食文化国民会議会長/日本料理アカデミー理事)
対象 10代以上
参加人数 54名
参加費 2,000円

協力 東京日仏学院
広報物デザイン 福岡南央子(woolen)



記録映像(公開予定)

日常を見限らない
味覚のワークショップ

地域と市民活動

Local Community

地域と市民活動

Local Community

40代の声

村瀬さんの老いの考え方や死生観は驚きと感動に満ちていて、日々の感じ方、捉え方、生き方を一変させるようなイベントだった。



3



1



4



2

寿ぎと尊厳

開催日時 2026年1月18日(日) 13:00~18:30

会場 ワークショップルームAB

ゲスト 村瀬孝生(「宅老所よりあい」ほか統括所長)、上野千鶴子(社会学者)

参加人数 168名

参加費 3,000円

不可思議な世界

開催日時 2月15日(日) 13:00~18:30

会場 ワークショップルームAB

ゲスト 村瀬孝生、吉田悠軌(怪談研究家)、新澤克憲(NPO法人やっこ理事長)

参加人数 88名

参加費 3,000円

両日進行 山内泰(一般社団法人大牟田未来共創センター理事)

関連上映 アニメーション映画「しわ」

2011年/スペイン/89分

監督:イグナシオ・フェレーラス

開催日時 2月15日(日) 10:00~12:00

会場 セミナールームAB

参加人数 67名

参加費 1,000円

広報物デザイン 福岡南央子(woolen)

新しい寿がられること

ネガティブに捉えられがちな「老い」のイメージを多様なコンテンツから積極的に捉え直すアメイジングなイベント第3弾。

寿ぎと尊厳

先進的な認知症ケアで注目を集める「宅老所よりあい」の施設長 村瀬孝生氏の「ユーモラスな老い小断」「老いと尊厳」や、社会学者の上野千鶴子氏の『アンチ・アンチエイジングの思想』の講演を受けて、「老い」や「尊厳」を巡って語り合った。

不可思議な世界

見えないはずのものが見えたり、聴こえないはずの音が聴こえたりする怪奇体験との遭遇がテーマとなった。村瀬氏による小断「老いと戸惑い」、新澤克憲氏による心のつまづきを感じる当事者の日常世界を表す語り「それぞれのふつうをいさる」、吉田悠軌氏による実話怪談など、現行社会が認める整合性のネットワークから漏れる個々の体験が寿がれるあり方を探った。

アニメーション映画「しわ」

老いるとは、認知症と共に生きるとはどのようなことなのか? シリアスなテーマをユーモアと友情、尊厳の視点から描いたアニメーション作品の上映を行った。

- 1 村瀬孝生氏(上)、上野千鶴子氏(下)
- 2 質疑応答、参加者同士の対話
- 3 吉田悠軌氏(上)、新澤克憲氏(下)
- 4 各日の対談、上野千鶴子氏の講演



記録映像(公開予定)

老人性アメイジング!

vol.3 寿ぎと尊厳

市民活動支援コーナー

ちかくのこーく

第24回おはなしいっぱい

穴アーカイブ... an.archive

せたがやアカカブの会

エトセトラの時間

見えるものと

見えないものを語る会

共催事業

遊べ! 大人たち

「冒險遊び場」雑居まつり「自主保育」ともに歩んだ50年

世田谷線貸切朗読会

「つむじ風食堂の夜」

コロナ禍のこーく



2



4



3



5

- 1 打合せスペースA
 - 2 入口から中を望む
 - 3 市民活動体験喫茶バオの様子*
 - 4 プリントアウトスペース*
 - 5 世田谷文化生活情報センターの開館当初は情報交流スペースだった(1997年)*
- 撮影：高田洋三(※の写真を除く)



1

世田谷区内で活動するさまざまな団体を支援する場。日常的な会合や講座に利用できる貸出スペース、活動のためのチラシやポスター、冊子を作成できる印刷機、大判プリンター、紙折り機を常備。また、情報掲示板やチラシラックでは、登録団体のイベント情報の告知やメンバー募集なども可能。

市民活動団体のニーズを的確に汲み取り、柔軟に対応するため、運営を中間支援組織であるNPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA)に委託。10月には、「世田谷アートタウン 三茶 de 大道芸」に合わせ「市民活動体験喫茶バオ」を開催。登録団体のさまざまな活動を体験できるスタンブラリーや喫茶スペースでの交流を通じて紹介した。

2001年、市民活動団体が抱える課題を解決する場として開設し、場所と機材の提供を行うとともに、活動分野を超えたネットワーク実現の拠点として運営を行ってきた。残念ながらこのコーナーは、2026年3月末をもって閉鎖、跡地には世田谷区の太子堂出張所が入居する。

ご愛顧ありがとうございました

市民活動支援 コーナー

場所 生活工房3階
 開館時間 9:00~21:00(祝・休日を除く月曜休館)
 委託先 NPO法人国際ボランティア協会(IVUSA)
 来場人数 7,878名(2025年4月1日~2026年3月31日)



1



3



2



5



4

参加者の声

プログラムの作り方もとても良い。
素晴らしい活動ですね。

開催日時 2025年8月20日(水)～8月22日(金)
11:00～15:00

会場 ワークショップルームAB

出演 わらべうたの会トトケッコー、おはなし結、さくらばなな、成城さくら児童館、おはなし*さいた、パークシティー溝の口おはなしの森、こわいお話会、世田谷区立図書館、おはなしおもちゃ箱、百音の樹、弦巻児童館、わらべうた勉強会、おはなしポケット、ひつじ会、ありのママ、にじいろのたね、高柳芳恵(ゲスト)

対象 幼児～小学生(大人参加可)

参加人数 のべ1,135名

参加費 無料

共催 世田谷おはなしネットワーク

協力 世田谷区中央図書館、世田谷区立児童館

40代の声

世界観がぐうーんと
広がりました。

vol.10 三茶学 太子堂の、子どもの遊びとまちのこと

開催日時 2025年5月25日(日) 14:00～16:00

会場 セミナールームB、オンライン

ゲスト 荻原礼子(まちづくりプランナー/結まちづくり計画室主宰)
小柴直樹(一般財団法人世田谷トラストまちづくり常務理事)

参加人数 会場14名、オンライン10名

vol.11 三茶学 三軒茶屋の、大道芸とまちのこと

開催日時 2025年10月1日(水) 19:00～21:00

会場 ワークショップルームB、オンライン

ゲスト 橋本隆平(大道芸プロデューサー)
小山恵(三軒茶屋銀座商店街)
酒井淳美(世田谷パブリックシアター)

参加人数 会場22名、オンライン7名

vol.12 三茶学 三茶でつくる、これからの仕事のこと

開催日時 2026年2月28日(土) 14:00～16:00

会場 セミナールームB、オンライン

ゲスト 吉田亮介(三茶WORK)
熊谷充紘(twillight)

参加人数 会場8名、オンライン13名

進行 市川徹(まちづくりコーディネーター)

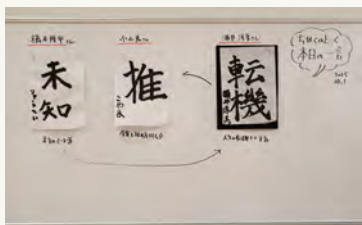
記録 千葉晋也(まちづくりデザイナー)

参加費 会場200円、オンライン無料

企画制作 株式会社世田谷社



1



3



2



5



4

生だから伝わるこそ

「世田谷おはなしネットワーク」と共催する本企画は、世田谷で活動するおはなしの会が大集合し、夏休みの3日間にさまざまなプログラムを生で上演した。

本企画は、構成・演出・出演・準備の全てを市民が行う手作りイベントである。幼児から小学生までを対象に、紙芝居・手遊び・わらべ唄・すばなし・パネルシアター・大型絵本など多彩なプログラムとなっている。人形劇「さるかに合戦」とペープサート「かにむかし」では、驚く仕掛けやユーモラスな人形の動きに会場が沸き立った。その他「こわいお話会」「ナチュラリスト・絵本作家の高柳芳恵氏が、会場にセミの抜け殻を配り、虫の知恵の凄さについて語るなど、夏休みならではのプログラムも盛りだくさん。酷暑の夏に、親子でクーラーの効いた涼しい場所であそびたいことができていくという事で、延べ1135名が訪れる大盛況のイベントとなった。

※1997年活動開始。世田谷区内で活動する複数のおはなし会が連携し、図書館などで活動中。現在の60のグループ個人会員から成る。

第24回 おはなしいっぱい

- 1 ペープサート「かにむかし」の様子
- 2 人形劇「さるかに合戦」の様子
- 3 大型絵本を朗読する子どもたち
- 4 会場の様子
- 5 手作りの布絵本

- 1 三軒茶屋の、大道芸とまちのこと
- 2 太子堂の、子どもの遊びとまちのこと
- 3 書道でまごめひと言
- 4 千葉晋也氏によるホワイトボードでのまとめ(イタガキ)
- 5 三茶でつくる、これからの仕事のこと

三軒茶屋の遊び場、大道芸、仕事

ちかくのどーく



奥村玄氏によるグラレコ



集合写真

共催事業 遊べ!大人たち

「冒険遊び場」
「雑居まつり」「自主保育」
ともに歩んだ50年

住民自治の半世紀と、関係の質

「プレーバック・プレーパーク」遊び場をめぐる冒険（2019）、「せーかつぶれぶれこーぼー」（2023）「16頁」など、生活工房では「プレーパーク」と接点のあるプログラムを実施してきた。本企画は、羽根木プレーパークの開設前、1975年に経営での試行から数えて50年の節目にNPO法人プレーパークせたがやが企画したシンポジウムである。生活工房は会場協力などを行った。イベント名が示すとおり、常設の遊び場が開設された羽根木公園は、「雑居まつり」や「自主保育」など住民自治の精神が実践されてきた。前半は、三者それぞれが活動をはじめた経緯や相互の関わりなどが報告され、後半はいま直面している課題をめぐって意見交換が行われた。

開催日時 2025年6月21日（土）
13:30～16:45
会場 セミナールームAB
参加人数 112名
参加費 ①会場参加：1,500円
（冊子資料代込み）高校生以下無料
②会場+後日配信：2,000円
（冊子資料代込み）
共催 認定NPO法人
プレーパークせたがや

共催事業 世田谷線 貸切朗読会 「つむじ風 食堂の夜」

世田谷線に育まれたものがたり



吉田篤弘さんによる朗読風景



貸切の「臨時」表示がある招き猫電車

開催日時 2025年11月8日（土）14:00～16:00
会場 世田谷線貸切車両内
※三軒茶屋キャロットタワー5階
セミナールーム集合、解散
参加人数 56名
参加費 1,500円
（三軒茶屋～下高井戸間の
往復運賃込み）
共催 世田谷文学館

1925年、玉川電気鉄道（現・東急電鉄）の支線として開通した世田谷線は、1969年に渋谷～二子玉川間の本線が廃線となったことで、三軒茶屋～下高井戸間を走る独立した路線となった。それから100年目の2025年、世田谷文学館ではコレクション展「世田谷線・100年間のものがたり」を開催しており、その関連イベントとして、世田谷線車内での朗読会を同館と共催で実施した。参加者は、三軒茶屋駅から貸切りの世田谷線（豪徳寺の招き猫をモチーフとしたラッピング電車）に乗車し、作家の吉田篤弘氏による世田谷線沿線をモデルとした「月舟町」シリーズの朗読と、この沿線で育ったという吉田氏のさまざまなエピソードを楽しんだ。

写真撮影：三軒線良

あの時の記憶を記録し、未来へつなげる試み

未曾有の被害に見舞われた東日本大震災。その日のひとりひとりの体験を記録・保存・継承する事業を実施してきたせんだいメディアアテークと協働し、新たに《コロナ禍》の記憶を収集する事業を開始した。協議を重ねてインタビューシートを作成し、双方の館内とオンラインで広く人々の声を収集している。寄せられたシートには、自らが叫ばれた日々の困難や不安だけではなく、「新しい生活様式」の中で出会った気づきや変化、日常の工夫なども綴られ、統計データだけでは表れない生活のリアリティを垣間見ることが出来る。収集したインタビューシートは双方の施設で展示公開し、パンデミックの教訓を共有財産として保存するとともに、時代の知恵として未来へ繋いでいく。

共催事業 コロナ禍のこど

開催日時 2026年3月11日より募集、順次公開
会場 生活工房、せんだいメディアアテーク、オンライン
回答数 44名 ※3月31日時点
参加費 無料
共催 せんだいメディアアテーク（公益財団法人仙台市市民文化事業団）
協働 丹羽朋子（文化人類学者）
イラスト・インタビューシートデザイン 関川航平

20代の声

昔のホームビデオを観るとい
貴重な機会、様々な方のお話を
聞くことができてよかった。

エトセトラの時間 見えるものと見えないものを語る会

開催日時 ①2025年7月21日（月・祝）
※講師都合により中止
②2026年2月11日（水・祝）
14:00～16:30
会場 オンライン（Zoomミーティング）
参加人数 5名
参加費 無料
企画制作 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ、remo [NPO法人記録と表現とメディアのための組織]
イラスト 進士遥

せたがやアカカブの会

開催日時 vol.41：2025年5月11日（日）、
vol.42：2025年9月28日（日）、
vol.43：2026年1月25日（日）
14:00～15:30
会場 ワークショップルームA
参加人数 29名
参加費 無料
企画制作 remo [NPO法人記録と表現とメディアのための組織]
ウェブサイトデザイン・構築 田中慶二（Calamari Inc.）

- 1 せたがやアカカブの会
- 2 エトセトラの時間
- 3 直筆のコメント
- 4 ウェブサイト「世田谷クロニクル」もリニューアル
- 5 映像から思い出したことなどを記入

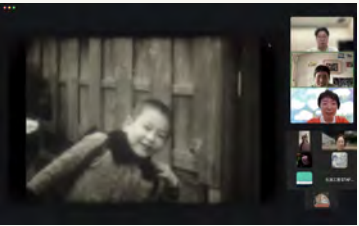
対面ですっきり映像をみて、アーカイブを充実させていく「せたがやアカカブの会」も10年目。参加者世代も徐々に変化している。次の10年に向けたアーカイブの活用についても考えていきたい。



1



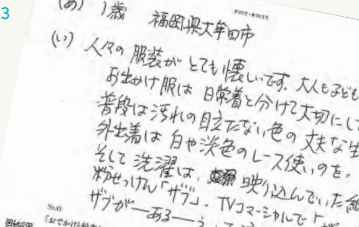
4



2



5



3

2015年に始動した「穴アーカイブ」は、今年で10周年。市井の人々から提供いただいた84巻の8ミリフィルムは、ウェブサイト「世田谷クロニクル」で公開している。本年度はリニューアルして、視聴者の《声》を直筆のコメントで閲覧できるようになった。これに伴い、「エトセトラの時間」もアウトプットの方法を見直した。目が見えるひと、見えないひとが全国からオンラインで参加して、映像を鑑賞するワークショップ。これまでは、その内容を《会話録》としてオンラインで公開してきたが、今回からウェブサイト上の《声》として参加者のコメントを掲載することに。節分や雪だるま、スケートで遊ぶ子どもたちが記録された映像を視聴しながら、耳で分かるように言葉にしていく。赤塚不二夫の漫画の「シエー」をまねたポーズなど、見逃してしまいそうな何気ないシーンにも気づく。対面ですっきり映像をみて、アーカイブを充実させていく「せたがやアカカブの会」も10年目。参加者世代も徐々に変化している。次の10年に向けたアーカイブの活用についても考えていきたい。

おち、はなす、きく、みかえ

エトセトラの時間 見えるものと見えないものを語る会 せたがやアカカブの会

穴アーカイブ：an-archive

ウェブサイト

生活工房の施設案内、事業予定、募集情報、展覧会レポートなどを掲載して情報発信した。ユーザー目線を意識した分かりやすく見やすいウェブサイトを目指し、サイト内コンテンツの改善も図った。

生活工房ウェブサイト
<https://www.setagaya-ldc.net>
ページビュー数：315,533件

世田谷クロニクル1936-83
<https://ana-chro.setagaya-ldc.net/films/>
ページビュー数：24,550件

動画配信

YouTubeチャンネル
セミナーシリーズの記録動画を公開し、チャンネル登録者数は前年度比126%、年間総再生数は前年度比113%となった。
<https://www.youtube.com/@生活工房公益財団法人>
チャンネル登録者数 4,089人
2025年度の視聴数63,117回

商業施設等との 連携広報・地域連携

世田谷区内で営業する商店等に依頼し、広報面の協力、イベント会場で関連書籍を販売してもらうなど、地域連携を図った。

協力先
・ twililight
東京都世田谷区太子堂4丁目28-10 鈴木ビル3F・屋上
・ エコー仲見世商店街
・ 絵れ菜 Elena Tokyo
東京都世田谷区三軒茶屋2-13-16

印刷物発行

情報紙を年4回発行し、生活工房の事業を紹介した。世田谷区内施設や全国の文化施設等で配架して施設全体の周知を図るとともに、デジタル情報を受け取ることが難しい層にも情報を届けた。

季刊生活 (2025年7.8.9月号～2026年4.5.6月号)
季刊発行、発行部数：各7,000部
題字：加山幹子
グラフィックデザイン：小林一毅



ソーシャルメディア

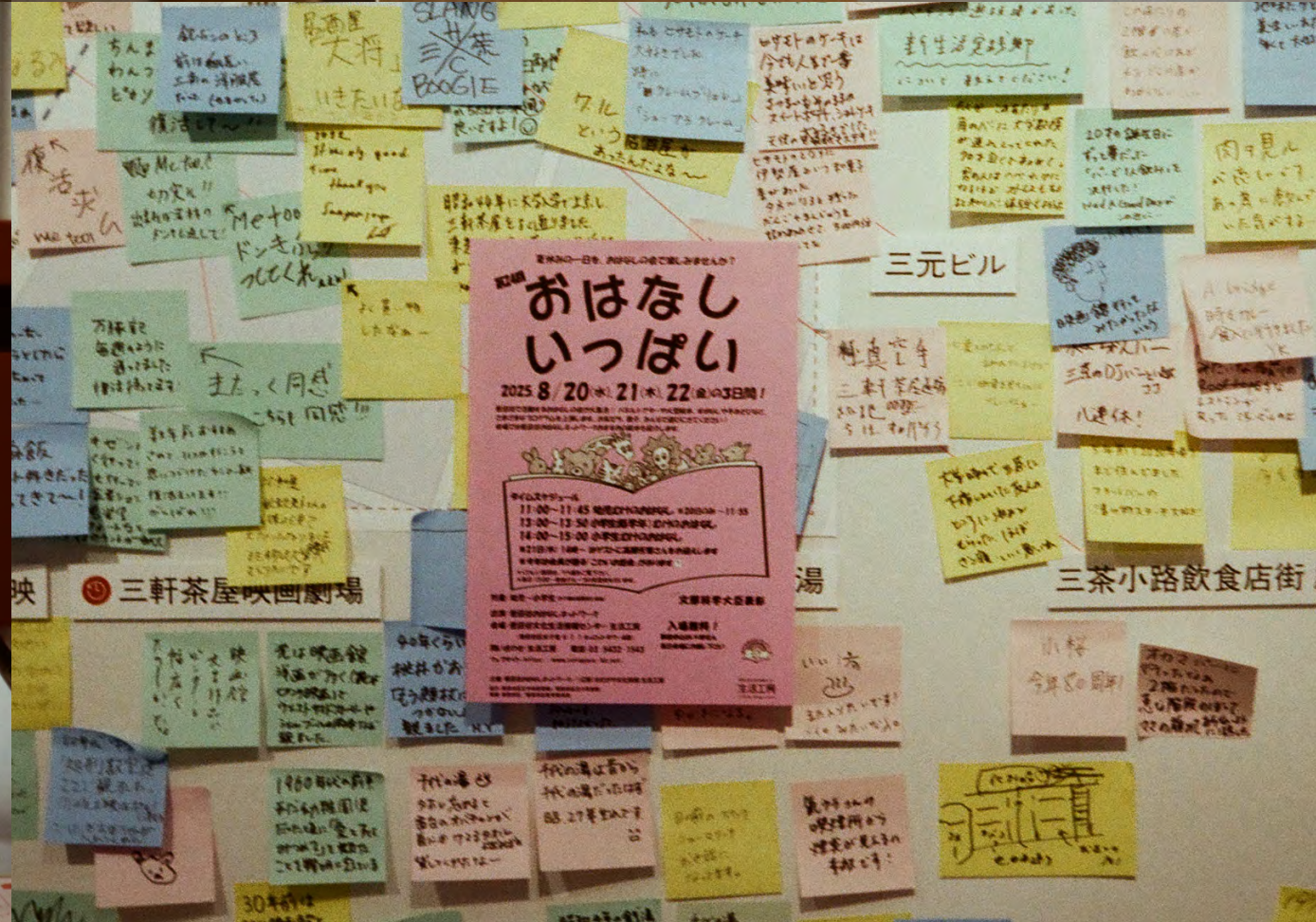
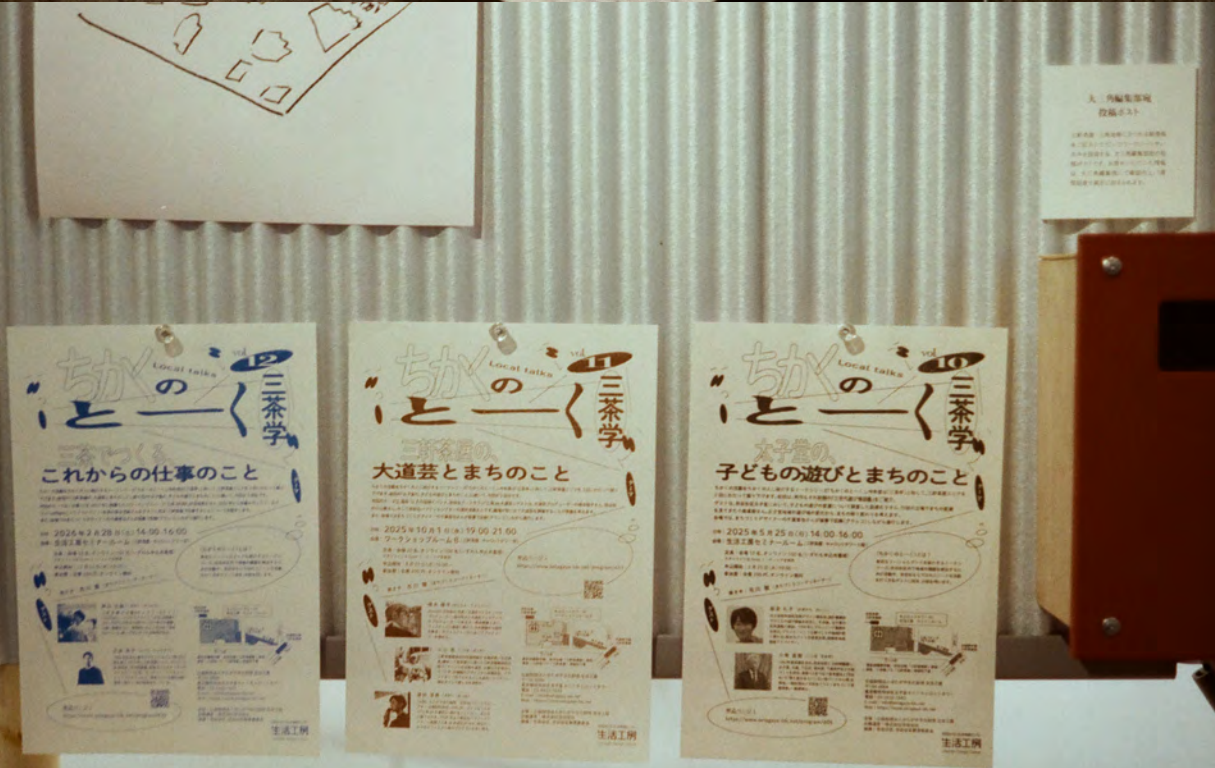
SNSを通じた広報活動も積極的に行い、特にInstagramのフォロワー数を前年度比112%に伸ばした。施設を身近に感じてもらえるよう情報配信に注力した。

 @setagaya_ldc
フォロワー数：2,845名
 @setagaya_ldc
フォロワー数：3,551名
 <https://www.facebook.com/setagayaldc>
フォロワー数：1,777名

広報掲載実績

メディア向けにプレスリリースを配信。取材対応や記事掲載対応等を実施した。

新聞：7件
雑誌：6件
WEB：73件
TV・ラジオ：10件





子どもの時代
戦前・戦中・戦後 子どもをめぐる
昭和の暮らしと文化展

戦後80年企画
春日野夫コレクション

2025.
8.19(火) — 12.28(日)
9:00 — 21:00

生活工房ギャラリー
生活工房 (Shikibu Design Center)
入場無料

防
火
設備



奈川県の
「雨降(あ
52m
の霊山
大山へ参拝
、参拝のた

豆商はたのの次男が、
「豆商はたの
せたがや」どおり
三軒茶屋駅前の交差
を起す「フカナー」
筋で
われ
の元
る中
れた

「フカナー」
Multi-Color Exhibition

すーぱーへあーやんぐ「スーパードット
ーヤング」(商店・生活) 世田谷通り沿い、
三角地帯の端の方にある美容院。三軒茶屋にて
昭和2年から営業しており、2027年で創業
百年を数える老舗でもある。店内は近年リニュ
ールされ、最新のAIマツサージチュアも導入
「429号線」の最新美容室」(40代、
6号線
流行す
整備さ

【た】

老人性
イメージング!

村瀬孝生
vol.3
寿と尊厳

2025年1月18日 13:00-16:30
2025年2月15日 13:00-16:30
2026年2月15日 10:00-12:00

エトセトラの時間 見えるものと見えないものを語る会



2026
2/
11

生活工房は、昭和30～40年代に普及したミニクリエーションのデジタル・アナログウェブサイト「生活工房」の10周年を記念して、東京の人々の日常を振り返るためのイベント「見えるものと見えないものを語る会」を開催します。このイベントは、生活工房の歴史を振り返るだけでなく、生活工房が持つ「エトセトラ」の魅力を再発見する機会でもあります。当日は、生活工房の歴史を振り返るだけでなく、生活工房が持つ「エトセトラ」の魅力を再発見する機会でもあります。

開催する会場「エトセトラ」2025年11月15日(土) 13時～17時 / 2026年2月11日(水) 14時～16時 / 会場：オンライン (Zoom) / 定員：50名 (申込：参加費無料) / 申込締切：2026年1月28日(水) / 申込方法：生活工房 601号が申込フォームより / 申込費：0円 / 申込受付：2026年1月28日(水) 18時 / 申込受付：2026年1月28日(水) 18時 / 申込受付：2026年1月28日(水) 18時 / 申込受付：2026年1月28日(水) 18時

生活工房
LIFEWORKS



2026.1.20 (Sat) → 3.22 (Tue) 生活工房ギャラリー

三軒茶屋

記憶の三角地帯展

SANGENJAYA'S SMALL BUT MIGHTY SANKAKU-CHITAI AREA: EXHIBITION OF MEMORIES AND RECORDS

生活工房

日常を見限らない

味覚のワークショップ

味覚と芸術
2025年11月9日(日) 14時～16時

味覚と芸術
2025年11月15日(土) 14時～16時

味覚の世界
2025年12月13日(土) 14時～16時

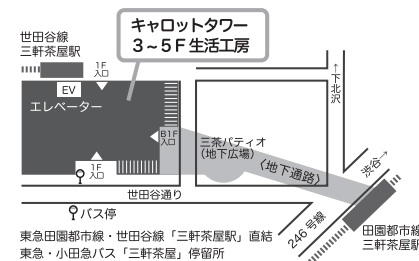
生活工房ワークショップルームAB
三軒茶屋・キルビドタワー1F

生活工房
LIFEWORKS



生活工房は、 地域の人々の 活動や発表の場!

生活工房では多彩な設備を備えたスペースで独自の企画を行うほか、市民団体などにお部屋を貸し出しています。スペースごとに登録条件・利用方法などが異なりますので、詳細はお問い合わせください。



世田谷文化生活情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center

休館日・管理休館日：年末年始・月曜日（祝・休日を除く）
所在地：東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
TEL：03-5432-1543
URL：https://www.setagaya-ldc.net

生活工房

施設ガイド

5F

講演会やミーティングに最適

「セミナールーム」は、講習会や会議に適したスペースです。プロジェクターを含む映像・音響設備も備え、効果的なプレゼンテーションが可能です。A・B各部屋の可動式間仕切りを外せば最大で120名（机椅子使用時は108名）まで収容できます。

セミナールームA

74㎡ / 定員48名 / 利用時間9:00～22:00

貸出対象
スペース



セミナールームB

83㎡ / 定員48名 / 利用時間9:00～22:00

貸出対象
スペース



4F

ものづくりや展示を楽しむ

「ワークショップルームA」は、ものづくりやトークイベントに対応したスペースで、併設されたキッチン（63㎡）には、各種厨房用品も備えています。大人数の交流会にも最適です。「ワークショップルームB」は、扇形の壁面が特徴的な展示スペースです。可動パネルで室内のレイアウト変更ができ、多様な展示が行えます。音響や映像機器を使った集会等の開催も可能です。

ワークショップルームA

126㎡ / 定員50名 / 利用時間9:00～22:00

貸出対象
スペース



ワークショップルームB

145㎡ / 定員50名 / 利用時間9:00～22:00

貸出対象
スペース



3F

生活工房の展示や市民活動の拠点

「生活工房ギャラリー」は、暮らしのデザインやクラフト、異文化紹介などをテーマに、生活工房が主催する企画展示を行っています（一般への貸出はしていません）。「市民活動支援コーナー」は、世田谷で活動している市民活動団体が打ち合わせや作業を行うことができるスペースです。（世田谷区の三軒茶屋駅周辺の公共施設再配置により、令和8年3月31日をもって閉鎖となりました。）

生活工房ギャラリー

開館時間：9:00～21:00



市民活動支援コーナー

利用時間：9:00～21:00



生活工房のホームページで施設のご案内をしております。



トップページ



施設案内



クラシーとカワルンの「生活工房っていったいどんなところなの?」

2026年度展覧会のご案内

9月予定
三角コーン展 (仮)

11月予定
草間京平とガリ版文化展 (仮)

2026年度の展覧会事業は、キャロットタワー4階ワークショップルームにて開催します。生活工房ギャラリーは現在の3階から2階へ移転し、2027年4月(予定)にリニューアルオープンいたします。

ご支援・ご協力いただいた

企業、団体、教育・公共機関等 (各50音順・敬称略)

共催：世田谷おはなしネットワーク、世田谷文学館、認定NPO法人プレーパークせたがや、せんだいメディアテーク (公益財団法人仙台市市民文化事業団)

協力：アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究人類学「社会性的人类学的探究：トランスカルチャー状況と寛容／不寛容の機序」、ArtSticker、大平農園、北秋田市くまこ園、行山流舞川鹿子躍、三軒茶屋エコー仲見世商店街、視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ、昭和のくらし博物館、せたがや未来の平和館 (世田谷区立平和資料館)、造形教育センター、大三角編集部 (大澤景、竹中万季、シャラポア野口)、東京外国語大学フィールドサイエンスcommons (TUFISCO)、東京日仏学院、日本学術振興会学術知創プログラム「身体性を通じた社会的分断の超克と多様性の実現」、日本ヘアカラー工業会、日本モンキーセンター、福島県立相馬高校放送局、ホーユーヘアカラーミュージアム、吉岡養蜂園、理想科学工業株式会社、remo [NPO法人記録と表現とメディアのための組織]

助成：JSPS科研費19K13479・23H03899C03・24H02199・24H0219814・23K20129助成

後援：世田谷区、世田谷区教育委員会

生活工房アニュアルレポート2025

発行日：2026年4月30日

編集 桜井祐、篠原繭 (TISSUE Inc.)、生活工房

デザイン 北岡誠吾

写真 大野真人 (表紙)、富澤大輔 (P1,P31-39)

印刷 株式会社山田写真製版所

協賛 株式会社東急コミュニティー

発行 公益財団法人せたがや文化財団 生活工房

〒154-0004東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー

電話：03-5432-1543 ファックス：03-5432-1559

メール：info@setagaya-ldc.net

https://www.setagaya-ldc.net

本書の無断転写、複製、転載を禁じます。

©Setagaya Arts Foundation Lifestyle Design Center 2025-2026

Printed in Japan

生活工房アニュアルレポートとは――

生活工房の1年間の活動をまとめた記録・報告書です。

数字で見る 生活工房 (2025.4.1-2026.3.31)

来場者数

来場者総数

270,899

展覧会	230,037人
展覧会関連イベント	318人
ワークショップ・セミナー	1,321人
地域と市民活動	9,333人
貸館使用者・来場者	29,890人

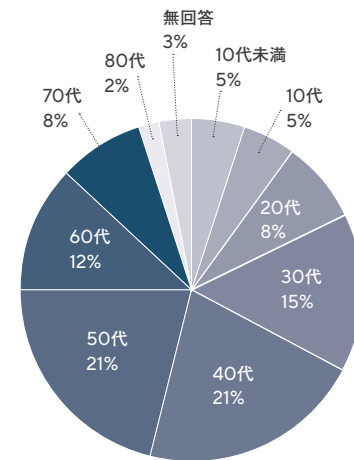
事業数

事業総数

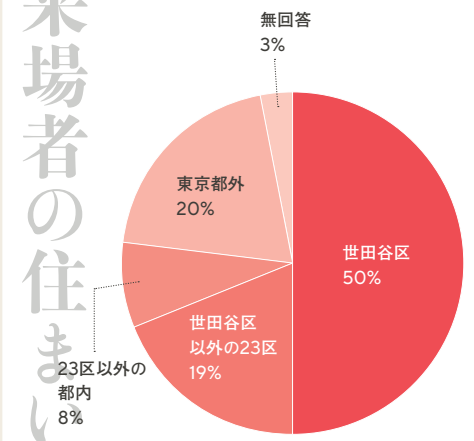
47

展覧会	5件
展覧会関連イベント	15件
ワークショップ・セミナー	15件
地域と市民活動	12件

来場者の年代



来場者の住まい





世田谷線



三角地帯屋の写真を探しています

三
角
地
帯
屋
の
写
真
を
探
し
て
い
ま
す

いつの
写真でも
OK!

紙でも、
データでも
OK!

【お持ち込み・ご相談について】
120 (9)~122 (日)の会期中、毎週土曜日 13:00~18:00。
会場はスタジオが空席しておきます。
お写真をお持ちの方は直接お持ちいただき、お直しください。
お持ちいただいた資料はその場でコピーを取り、返却いたします。
ご質問や、お返りも大歓迎です。

公益財団法人世田谷区文化財団 生活工房 大田有樹 代表

映画館
駅に川強し何ゆえ
同
替
同
正下
司
本
大
キ
キ
キ



三軒茶屋
大三角地帶
事典

大三角編集部

編

第  版

生活工房

三軒茶屋
大三角地帶
事典

大三角編集部

編

第 **1** 版

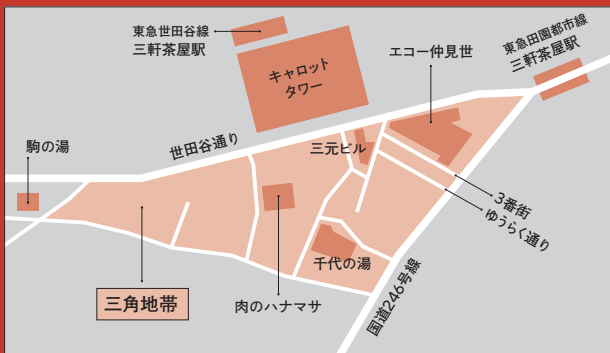
生活工房

世田谷区三軒茶屋にある通称「三角地帯」。世田谷通りと玉川通りに挟まれ、細い路地が縦横に入り組むこのエリアには、戦後ヤミ市に端を発するさまざまな世代の店舗が共存しています。

生活工房ギャラリーでは2026年1月20日から3月22日にかけて「三軒茶屋 大三角地帯展」を開催しました。三角地帯のみならず、文化的につながる周辺エリアや関係性を「大三角地帯」と捉え、そこに堆積する記憶と記録を集めてひらく来場者参加型の展覧会です。

本書は、会期中に更新されていた「大三角地帯事典」の冊子版。この地にまつわる事象を項目としてまとめた事典に、来場者からの投書や、付箋で貼られた声、毎週末に行われたイベントの内容を増補しました。

この展示に集まる方たちの記憶や記録をひもといていくことで、これまでも、これからも営まれていく「生活」のかたちと引き継ぎ方を考える——言葉では語り尽くせぬ展覧会の「副読本」です。



凡例

単語……………和語はひらがなで表記し、外来語はカタカナで表記している。
漢字表記……………単語における主な漢字表記を「」の中に示している。
カテゴリ……………厳密には定義の定まらない「三角地帯」を中心とするこの事典では、以下のカテゴリで単語を区別している。

- 〔過〕……………過去の出来事や、現在ではない場所
- 〔キーワード〕……………語り継がれるお話や、三角地帯を語るに欠かせない単語
- 〔建物・施設〕……………話題にあがりがあるお話や、主要な建築物や施設
- 〔道・交通〕……………この地域を語るうえで主要な道路や通り
- 〔土地・エリア〕……………広域に及ぶ場所や住所名
- 〔生活〕……………生活に密接な施設や店舗、催しなど
- 〔歴史〕……………この地域の成り立ちに関係する、歴史上の出来事や場所
- 〔商店〕……………品物の販売を行う個人経営店やチェーン店
- 〔飲食店〕……………食事や飲料、お酒を提供する店

- 📍……………「三軒茶屋 大三角地帯展」の来場者から寄せられた情報を元に追加した項目
- 📄……………展覧会会場でのアンケート回答を編集した来場者からの情報
- 📖……………展覧会会場に設置された「大三角地帯マップ」に寄せられたコメント
- 📝……………展覧会会期中に実施された関連イベントにまつわる項目

※事典の項目は、生活工房アニュアルレポートで過去に作成された「三軒茶屋・三角地帯 △」のはなし/△の地図(2023年度)、「三角地帯のはじまりを辿るFIELD NOTE」(2024年度)に掲載された内容、編集部にて「三軒茶屋 大三角地帯展」に合わせ作成した内容に、展示期間中に来場者から寄せられた情報を追加して作成しています。情報は2026年4月時点のもの。追加項目やコメントについては、情報の性質上一部事実確認がしきれなかった内容も含まれます。

あおきーや【青木屋】「商店(過)」三角地帯・

エコー仲見世内にかつてあった玩具屋。2009年に閉店するまで、60年間営業を続けていた。

●「祖母がクリスマスプレゼントを買ってくれた」(50代・世田谷区在住)

●「3月に30歳になる息子が園児の頃、当時流行していたベイブレードを買いによく通いました。ご褒美を買いに青木屋さんへ一緒に行きました」

(50代・30年近く世田谷区在住)

●「私の子ども時代から自分の息子まで、二代にわたってお世話になったおもちや屋さん。お小遣いを貯めて初めて自分で買ったミニゲームが懐かしいです。今から25年ぐらいい前、息子のための『カタカタ』が欲しくて訪ねたら、2階の倉庫から昭和レトロな木製のものを出してくれました。当時はすでにプラスチック製が主流になっていましたが、昔ながらのものが欲しかったので即購入。あまりのキュートさに、今でも外箱ごと取っており

ます。黄色地に動物が描かれた包装紙もかわいかった〜！」(50代・町田市在住。実家が三茶で三代三茶在住)

●「エコー仲見世に2009年まで存在したおもちや屋。ご夫婦で経営していた。毎年クリスマスに欲しかったおもちやがサンタさんから届いた。誰にも言っていないのに、サンタさんすごい！と感動した。今考えると、青木屋のおじさん、おばさんが私の祖父母に『あのおもちやをもの欲しそうに見てたよ』とこっそり伝えていた」(50代・祖父母以来の三茶三代目)

あだちーしょうてん【足立商店】「商店(過)」

ゆうらく通りにかつてあった乾物店。1947年創業。上町に移転した2019年まで、飲食店が中心となったゆうらく通りの中で唯一食品を扱う個人店として、開業当初のスタイルを貫いていた。

あむすーせうざ【ams西武】「商店(過)」19

80年代に存在した、西武系列の百貨店。月賦百貨店の「緑屋」が西武と合併したことで誕生した。

同店は世田谷区が官民一体で進める「市街地再開発事業」の第二工区として1985年に緑屋から建て替えられ、三軒茶屋地域の再開発の嚆矢ともなった。1998年に同じくセゾングループ(当時)のスーパーマーケットである西友に業態転換し、西友三軒茶屋店となり今に至る。

□「5階で映画や演劇、インスタレーションとか、いろんなイベントをやってくれていました。館長さんがサブカルチャーに熱い人で、企画が面白ければ格安でホールを貸してくれた。本屋の『ロボポート』もあったし、本当に文化度の高い場所でした」

「緑屋

いしばしーろう【石橋楼】「飲食店(過)」三軒

茶屋の地名の由来になった三つの茶屋の一つ。国道246号線と世田谷通りの交差点に店を構え、大山への参拝客を多く迎えた。大正期に「茶寮イパンシ

として洋食屋に転換。三つの茶屋の中で最後まで飲食業を続けていた。1945年、空襲による延焼の防止を目的にした建物疎開が行われることになり閉店。戦後、跡地は協和銀行を経てカラオケ店になっている。

「協和銀行三軒茶屋支店

いりあいーち【入会地】「キーワード」村同士

が共同利用することを決めた土地のこと。一般的に村境の山林や原野などが入会地にされる 경우가多かった。現在の三角地帯の周辺は、もともと村の中心から外れた村境であり、周辺の太子堂村や駒沢村などが共有する入会地として管理されていた。

いりきん【入禁】「キーワード」店側から「出禁」

をお客に出すことがあるが、お客の方から「入禁」として入店を自ら禁じることもあるという。飲み過ぎてしまった、面倒をかけてしまった、人間関係が難しい……といった気持ちからそうするというが、誰にでも共感できる話とは言えない。

●「入るのはダメ。出るのはOK。出禁は店側。入

禁≪客側≫(40代・世田谷区在住)
「出入禁止・出禁

え

えーぶりっじ【bridge】「飲食店」 三角地帯内、三元ビルの屋上階にあるカフェバー。カレーやパスタの他、デザートやカクテルまで幅広いメニューのラインナップを持つ。時折ライブや展示などの企画が開催されることも。テラスからは、三角地帯を真上から一望することができる。

●「三元ビルの怖いエレベーターを昇って最上階、屋上に掘立て小屋がついたような、不思議な作りのカフェ。深夜0時までやっていて、DJもできただけ。2007年頃、大学生だった時、少し年上のアートやカルチャーに興味がある先輩たちが連れてつられて、打ち合わせなどで少しカックつけてよく行っていた」(30代・世田谷区在住)
▽三元ビル

エコーなかみせ【エコー仲見世】「生活」 年

季の入った看板やタイルが戦後の三角地帯の歴史を象徴する、二筋のアーケード商店街。戦後に焼け出された浅草の人たちが中心になって出店し、1950年に形成された。「仲見世」の名前は浅草寺の参道「仲見世通り」から。東京急行電鉄(以下、東急電鉄)玉川線が路面電車として運行していた当時は、乗り換えの通路として多くの人が行き交っていた。現在でも商店街創設当初の店が数軒残っている。
□「1970年代の夏、エアコンがあまりない時代に、エコー仲見世の入り口に氷柱が立っていた。とても涼しげだった」

えれなーとうきょう【絵れ菜Tokyo】「商店」

2023年に三角地帯・エコー仲見世内にて開業した器ギャラリー。店主である村上大輔の祖父は、同じエコー仲見世で「大野カバン店」を営業していた。店主は現在、三軒茶屋仲見世商業協同組合の事業部長も務める。

▽大野カバン店

お

おおのーカバンてん【大野カバン店】「商店(過)」1950年創業の老舗かばん店。世田谷通り沿い、エコー仲見世の入り口に店を構えていた。2015年に閉店。跡地では「いきなりステーキ」が営業している。

●「ランドセルなど、お世話になりました。残念ながら、10年くらい前にClose……。ここで有名な(スポーツ選手)にも会ったことがあります。こんな場所ではびっくりに！ 謎でした」(40代・40年くらい世田谷区在住)

●「自分が知る限り、小売店で唯一吉田カバンを扱っていた名店です」(50代・町田市在住。実家が三茶で三代三茶在住)

□「40〜50年前ですが、バックを買うときは必ずエコーの大野カバン店に行きました。そこで買うこともあれば、価格の参考にすることも」

おおやま【大山】「土地・エリア」 神奈川県

沢大山国定公園にそびえる、標高1252メートルの山。かつては「阿夫利(あぶり)山」「雨降(あふ)り山」とも言われ、古くから雨乞いの霊山として知られた。江戸時代中期には大山へ参拝する「大山詣」が庶民の間で流行し、参拝のための「大山道」が大山を中心に放射線状に整備された。その道の一つが三角地帯発展のルーツの一つとなった。
▽大山道

おおやまーみち【大山道】「道・交通」 江戸時代に形づくられた、江戸から大山へと至る古道群の総称。三軒茶屋を通る大山道は、「矢倉沢往還」とも呼ばれた。現在その道筋は国道246号線になっており、三角地帯の突端には石仏のある道標が残っている。

▽大山「大山道の道標石碑」矢倉沢往還

おおやまみちーのーどうひょうーせきひ【大山道の道標石碑】「歴史」 三軒茶屋駅前の交差点の、国道246号線と世田谷通りの交差点に建てられた道標。背面の記載から寛延2年(1749

年)に建てられたことがわかる。正面には「左相州 大山道」、左側面には「右富士 世田谷道 登戸道」、右側面には「此方 二子通」とある。道標の上部には不動明王の石仏が鎮座している。近代に入り、路面電車や道路の拡幅のために転々としたのち、1983年にはぼ元の位置に戻された。ただし、本来の道標としては、石仏の正面が渋谷方面になればならないのが南を向いており、道を指し示す機能は失われている。

おんせん【ONSEN】「飲食店(過)」

にかつてあったバー。「温泉」をコンセプトにしており、全国各地の温泉水を飲むことができた。焼酎の温泉割りを楽しめた他、温泉水の原汁で作られたおでんも好評だった。

●「三茶で初めて通い詰めた店。〃温泉水で割る〃酒が出ていた。面白いおじさんが沢山いました。現在は、バー『霧の中の風景』になっています」(40代・世田谷区在住)

●「2012年の春から数年間だけ3番街にあった。その後『霧の中の風景』となって現在に至る。温

泉水の前割り(焼酎を温泉水で割ってしばらく置いたもの)が美味しかった」(40代・世田谷区には仕事でたまに来る)

【か】

かいじょうーをーつくる【会場を作る】「イベ

ント」2026年2月14日に展示会場内で開催。

モクタンカン株式会社代表・建築士の荒木源希を講師に、三角地帯で「エレメ

ント」を探すワークショップ。

大三角地帯展の会場設計を担当した荒木が、三角

地帯でのフィールドワーク

や模型制作を通じて、街の

要素をどのように会場構成

へ落とし込んだかを解説。

その後、参加者とともに三

角地帯へ繰り出した。看板



やサインの写真を撮って原寸大で印刷、手書きの

「立ち小便禁止」の看板をダンボールで制作、壁を

這うコードをビニールテープで結束バンドで再現、

さらには閉店した店舗の椅子の脚を持ち込むなど、

各自が発見・採集した街の「エレメント」を会場へ

持ち帰り展示に付け加えた。

かしてんぼ【貸店舗】「キーワード」三角地

帯の飲食店の店舗は、ヤミ市時代から営業し現在は

廃業した元個人店が大家であることが多い。大型ス

ーパーの出店が進む80年代から90年代にかけて徐々

に個人店の数が減少。それに伴い、空いた店舗を飲

食店に賃貸することが増えた。

カラオケーボックス「キーワード」三軒茶屋・

三角地帯にはカラオケ店が数軒存在する。

・カラオケビッグエコー三軒茶屋駅前店 世田谷通

りと国道246号線の交差する突端のビルの全フ

ロアに展開している。

□「2006年ごろ、深夜急に友達と友達の彼氏と

4人でカラオケ。朝になって、タイムリープした

ような感覚になりました」

・カラオケベスト10三軒茶屋店 かつての映画館「中

央劇場」の跡地に入居している。

□「持ち込みが自由なため、自由なスタイルで利用

しています」

□「笑いあり涙ありの青春の場所！お別れの時は必

ず行ってたな」

□「初めて行った時、持ち込み自由ということので、

電気コンロを持ち込んで、鍋をした。あの時は、

すいませんでした」

・カラオケまねきねこ三軒茶屋店 栄通り沿いに2

016年出店。

□「中学生の頃、友達5人でカラオケしに行ったら

お会計が足りなかった。家が一番近い子が取りに

帰ったなあ」

からすやまーがわ【烏山川】「土地・エリア

(過)」世田谷区をかつて流れていた川。北烏山の

高源院にある池に端を発し、三軒茶屋駅北部を抜け、

目黒川に注いでいた。現在はほぼ全体が暗渠になっ

ており、特に三軒茶屋周辺では「烏山川緑道」とし

て親しまれている。かつては玉川上水から引かれた烏山分水と繋がっており、農業用水として使われていた。

●「烏山川緑道沿いにある太子堂小学校の正門前は三軒茶屋唯一の花見スポット。桜の季節には卒業もしくは入学する小学生たち、散歩する犬たちで賑わう、心温まる風景が見られる」（20代・上京以来世田谷区在住）

かわ／さんずーのかわ【川／三途の川】「キーワード」三軒茶屋の飲み屋街を挟む国道246号線についての、酒飲みの間の俗稱。

●「三角地帯と栄通りを隔てる国道246号。どちらにも飲み屋街が広がっているが、この道を挟むことで客層がガラッと変わる。この道を『川』と呼ぶ人も多い。私は個人的に『三途の川』と呼んでいます」（30代・世田谷区在住）

かんとーだいしんさい【関東大震災】「歴史」

1923年、相模トラフを震源とした地震による災害。特に地震後の火災による被害が甚大で、当時

の東京市内の当時の約60%の家屋が罹災した。一方農村地帯を多く含む世田谷地域は比較的被害が軽微だった。そのため、東京市の下町から焼け出された人々が世田谷等の郊外に住み始める。三軒茶屋の本格的な宅地化はこの流れを受けたもの。

かんばんーけんちく【看板建築】「キーワード」昭和初期の都市部の商店を中心に流行した建築様式。木造町家の正面を、銅板やモルタル、タイルなどで衝立のように覆ったものを指す。関東大震災後の防火対策に加え、当時流行していたモダンなデザインへの嗜好が相まって、多くの商店がこの様式を採用した。その後、バブル時代の地価高騰などによって激減。現在、三軒茶屋地区においては旧街道沿いを中心に点在する。

【お】

キャロットタワー「建物・施設」三軒茶屋駅直結の地上27階建、高さ124メートルの高層複

合ビル。三軒茶屋地域の再開発事業の目玉として

1996年に完成した。スーパーなどの商業施設の他、劇場や生活工房といった文化施設や行政施設も入居。中低層の建物の多い世田谷区の中で有数の高さを誇る三軒茶屋のランドマークにもなっており、26階には世田谷を見渡せる展望ロビーもある。

□「2010年ごろ、演劇ワークショップで毎日キャロットタワーに行くのが楽しみだった！」

□「気づいたらここに勤めていました。駅、職場、待ち合わせ、溜まり場を全て兼ねるなんでもある場所」

□「2006年、キャロットタワーが夫との出会いの場所でした♥」

きょうわーぎんこうーさんげんーぢやーし

てん【協和銀行三軒茶屋支店】「建物・施設（過）」国道246号線と世田谷通りの交差点にかつてあった銀行。エコー仲見世で放水事件があった際に、同銀行ビルの屋上から放水をしたという証言がある。その後、協和銀行は合併を繰り返し、りそな銀行になった2003年にビルから撤退。現在

はカラオケビッグエコーが入居している。

まりーのーなかーのーふうけい【霧の中の風景】「飲食店」三角地帯の3番街「ONSEN」跡に2014年にオープンした立ち飲みバー。店名の由来は、ギリシャの映画監督テオ・アングロプロスの映画タイトルから。

●「ただただ飲める場所」（30代・板橋区在住）

【く】

くみとりしきーべんじょ【汲み取り式便所】「生活（過）」排出されたし尿を便器下の便槽に貯留し、定期的に汲み取るタイプのトイレ。下水道が普及していなかった頃の三角地帯では、汲み取るためのバキュームカーのホースが通る専用の裏道があった。

クロージングイベント・せいかつこうぼうーギャラリーーをーみおくる【クロージング

イベント・生活工房ギャラリーを見送る」
 「イベント」大三角地帯展の最終日、2026年3月22日の夕方に行われたイベント。2027年春にキャロットタワー2階に移転予定の生活工房ギャラリーのクロージングも兼ねた大三角地帯展のクロージング。三角地帯に縁のある方から、本展の常連客ともいえる来場者、生活工房OB・OGまで幅広く参加。イベント終盤には、常連客も交えたスピーチが続いた。「昭和の香り漂う古い街ではありませんが、なんとか残して磨き上げて、これからも色んな人に訪れてもらえる街にしたい」(三軒茶屋仲見世商業協同組合事業部長／「絵れ業」の店主・村上)、「美術館でも博物館でもない生活工房。その立ち位置が難しく、さまざまな試行錯誤を繰り返す日々でした。ここにきてようやく、時代も生活工房に追いついてきたな、と感じます」(生活工房元室長・鈴木)。



谷区在住)
 『大山道

ここから「飲食店(過)」なかみち通り沿いの路地の奥に営業していた担々麺屋。メニューは担々麺のみ。2024年に閉店。

●「今はなくなってしまう汁なし担々麺屋。店長が寡黙で、入口のドアを閉めない」と怒られる。黒ゴマ担々麺の辛さ痺れマックスがおいしかった」(30代・世田谷区在住)

こまざわーでんきかん【駒澤電気館】「建物・施設(過)」1925年開館の、三角地帯で一番長い歴史を誇った映画館。1943年「三軒茶屋映画劇場」に改称。1945年の山の手空襲の際に全焼するが、戦後復興。全盛期の1952年には、姉妹館として「三軒茶屋中央劇場」を開業する。戦後の三角地帯の華やかさを象徴する映画館だった。1992年閉館。跡地には大型高層マンションが建設された。

【1】

こうしゅうらートイレ【公衆トイレ】「生活(過)」ヤミ市として出発した三角地帯の店舗にはかつてトイレの設備がなく、商売を営み暮らす人々は一様に三角地帯の公衆トイレを使っていた、という証言がある。

ここどうーによろろくーごうせん【国道

246号線】「道・交通」東京都千代田区三宅坂から静岡県沼津市までを結ぶ一般国道。大山詣のための古道「大山道」の道筋をほぼ踏襲している。

戦後、国道1号線のバイパスとして拡張された。世田谷を貫く大動脈としても機能しており、三軒茶屋駅周辺では世田谷通りと分岐。特に渋谷区の明治通り交差点から都県境である新二子橋までの区間は玉川通りとも呼ばれる。

●「三角地帯に接する道であり入り口である。しかし、それを知らない人は車でバスで、いや自転車や徒歩でさえも通り過ぎてしまう」(60代・世田

【2】

さいーかいはつ【再開発】「キーワード」既存の市街地を再整備すること。三軒茶屋地域においては、高度経済成長期以後の人口急増に対応した都市機能の拡充や、密集した木造建築による防災面の懸念などがかねてから指摘されていた。これらを解決するために、世田谷区議会にて「三軒茶屋地区市街地再開発基本構想」が1981年に策定される。このことをきっかけに、三軒茶屋地域の再開発が本格化していく。

さかえーどおりーしよってんがい【栄通り商

店街】「生活」三軒茶屋駅から南側、国道246号線から下馬団地方面に伸びる商店街。昭和初期ごろから地元の商人が集まり、生活必需品を提供する場所として始まったという証言があるが、現在も飲食店を中心に約80もの店舗が軒を連ねる。毎年8月には阿波踊り大会が開催されるなど、時折イベントが開かれることもある。

□「三軒茶屋のことになると、三角地帯や茶沢通りがフォーカスされがちだけど、栄通りもいいですよー！」

さかばーの「はなし」を「きく」【酒場の話を聞く】「イベント」 2026年1月25日、生活工房ワークショップルームで開催された、酒場ライター・パトリックと酒場案内人・塩見なゆを講師として招いたトークイベント。三軒茶屋・三角地帯のおすすめの居酒屋ほか、かつてのお店の雰囲気を残す事業継承についてや、闇市から続く横丁のなりたち、初めての酒場を楽しむ方法について語られた。なお2人は予習として、トークの日の事前に飲み歩きを実施。その際に巡った店を皮切りに数々の店舗情報を紹介。終盤には2人の見知った全国の飲屋街について話題が広がった。小さなお店を応援し、街が歩んできた背景を知ることは、お酒をおいしくする秘訣ともいえる。



さかもと「りょうま」【坂本龍馬】「歴史」 三軒茶屋の由来になった茶屋の一つ、信楽（後の石橋楼、茶寮イシバシ）には坂本龍馬の写真が残されていたという噂がある。

●「その昔、石橋楼（信楽）さんに来たことがあり、写真も残っていたという記述をどこかで見たいことがあります。真偽のほどは不明です」（50代・世田谷区在住）

さんかく「ちたい」【三角地帯】「生活」 三軒茶

屋駅前、国道246号線と世田谷通りの分岐点に挟まれた商店・飲食店街の通称。戦後復興の最中に建てられた店舗が、いまだに多く残る。周辺が再開発されていく中、その変わらない街並みが雑誌などのメディアでも取り上げられるようになり、1980年代あたりから「三角地帯」という呼称とともに注目されるようになった。

「小三角と大三角

●「物心ついた頃にはもう、三軒茶屋という街は私の生活の中にあっただ。それは、三角地帯も然りである。路面店は目まぐるしく変化していき、少し

寂しさを覚える店もあった。路地を入れば、粋な店の数々。この地がいつまでも残り続けてほしいと思う。この地に住む人々の想い出と共に」（10代・世田谷区生まれ、在住）

さんかく「ちたい」の「ルーツ」を「知る」【三角地帯のルーツを知る】「イベント」 「闇市にまつわるトーク」と題され、2026年2月5日に生活工房ワークショップルームにて実施されたイベント。建築史・意匠を専門とし闇市研究でも知られる石榑督和と、郷土史や都市デザインを専門とする金谷匡高が登場。オンラインで参加した石榑は、戦後の闇市が長屋型の「マーケット」へと発展し、現在の三角地帯のような商業空間として形成されたこと、さらにその背景に戦時中の建物疎開による空地の存在があった点を指摘した。世田谷区の郷土史にも知見の



深い金谷は「農村の外れ」としての三軒茶屋エリアが鉄道開通や震災後の人口流入を契機に交通と商業の拠点へ変化した過程を紹介した。過去の地図と写真をもとに、三角地帯の歴史を辿った2人のトークは、東京という都市の歴史と魅力を雄弁に物語るものとなった。

さんかく「ちたい」を「あるく」【三角地帯を歩く】「イベント」 「古地図でめぐる三角地帯」というテーマのもと2026年2月7日に行われた街歩きイベント。三角地帯とその周辺を、古地図を携えながら歩き、エリアの今昔を探った。案内人は金谷匡高（前項参照）と地図アプリ「世田谷マップDX」の開発者である男鹿芳則が務めた。茶沢通りや下の谷商店街、旧マーケット跡などを巡り、農地から商業地へと変化した歴史や、震災・戦災、東京オリンピックに伴う再開発の影響につ



いて解説。参加者の記憶も交えながら、かつてあった文華デパートや映画館の歴史、道路拡張による移転の経緯などが話題にあがり、この地の記憶が掘り起こされた。最後はエコー仲見世商店街へ。この商店街で育ち、2024年に「絵れ菜『Izuko』」の店主として戻ってきた村上大輔の話を聞き、街の変遷とそれによつた思い出を語り合う場となった。

さんげんしゅや【三軒酒や】「キーワード」

●「三角地帯に来たら、必ず三軒はハシゴ酒をする慣習。仲間内で流行っていた用語です」(50代・20年以上世田谷区在住)

さんげんちや【三軒茶屋】「土地・エリア」

世田谷区の地名。三軒茶屋駅や世田谷通りの南側に位置する。域内には三角地帯も含む新旧様々な区画・エリアが並ぶ。地名の由来は、江戸時代の大山道(現・国道246号線)と登戸道(現・世田谷通り)の分岐付近に信楽(後に石橋楼)、角屋、田中屋の三軒の茶屋が並んでいたことから。文化文政時代(1804-1830年)には定着した地

名であったが、行政上の正式な地名になったのは1932年の世田谷区成立時になる。

●当時、駒大高校に通学のため、若林駅で乗車して三軒茶屋にて乗換え。三茶で降りる際は、車掌さんから乗替券を受け取り、二子玉川方面へ向かう車輦に乗車することができた。246通りの路面電車に乗車する時は、安全地帯で電車の乗換えをするのだが、通りの中央にある安全地帯は非常に危険を伴う。車輦の中央ドアから玉電に乗換えるには足を高く上げないと届かないので一苦労した。(70代以上・世田谷区在住)

さんげんちやーえいがげきじょう【三軒茶屋映画劇場】「建物・施設(過)」

↓駒澤電気館

さんげんちやーえき【三軒茶屋駅】「交通」

田園都市線と世田谷線が乗り入れる、東急電鉄の駅。玉川電気鉄道三軒茶屋駅として、1907年開業。元々は路面電車の地上駅であったが、1969年の玉川線廃止、1977年の新玉川線(のちの田

さんげんちやーシネマ【三軒茶屋シネマ】

「建物・施設(過)」1954年開館、2014年に閉館した映画館。開館当初は「三軒茶屋東映」の名で東映製作の映画を主に上映。三角地帯にある映画館の中で一番最後まで営業が続けていた。閉館後も映画館のあったビルは現存し、営業当時の看板や受付跡が残っている。

●「20年から30年ほど昔、『ぼび』というフリーペーパーに三茶の映画館の招待券が出ていて、応募したらほぼ当たった。ペアチケットを一人で見たと。ちょっと恐くて、最近まで夢に見た」(40代・世田谷区在住)

さんげんちやーせいざーかん【三軒茶屋屋座館】「キーワード」

作家・柴崎竜人による、三軒茶屋を舞台にした全4巻の小説シリーズ(講談社刊)。駅前の路地裏の、「三角州」と呼ばれる昭和のイメージを色濃く残したエリアの中にある雑居ビルが舞台。主人公はそのビルの7階でプラネタリウムを兼ねたバー「三軒茶屋屋座館」を経営しており、そこを訪れる個性あふれる客たちの悩みを解決して

園都市線)の開通を受け、地上と地下でそれぞれ分かれることになった。世田谷線の駅の位置は周辺の再開発に合わせて移動しており、1996年には現在のキャロットタワー直結の駅になった。

●「キャロットタワーができるまでは、もともと田園都市線の近くにあった。移動したため、西太子堂駅にとっても近くなってしまう。駅付近に釣り堀もあった」(60代・過去に世田谷区在住)

さんげんちやーさんにぜろいちろく(うめ

ちゃんばー)【三軒茶屋32016(梅ちゃんばー)】「飲食店」2007年に渋谷にオープ

ン、2015年に三元ビルに移転してきたミュージックバー。店主の名前から「梅ちゃんばー」と呼ばれている。日替わりでDJが変わるので、ソウルやレゲエなど、イベントによって様々な音楽が流れる。

●「二十代の頃、三茶でよく遊んでいたという友人と、三元ビルの5階にあるバーに。懐かしい曲を流すDJと、日本酒のショットをいただきました」(40代・福岡県在住)

↓三元ビル

いく。

●「柴崎竜人『三軒茶屋座敷』」を読んで、来ました。再開発の話題なども作中に現れます。三角地帯の店を舞台にした小説なので、ご参考までに（30代・足立区在住）

さんげんちゃやーだいえい【三軒茶屋大映】
 「建物・施設（過）」1947年頃「三軒茶屋第一映画劇場」として開館。1963年頃に閉館。全盛期には2スクリーン体制で、大映作品や洋画をそれぞれ上映していた。現在跡地にはマンションが建っている。

さんげんちゃやーちゅうおうーげまじよう
 【三軒茶屋中央劇場】「建物・施設（過）」1952年、「世田谷中央劇場」として開館。2013年閉館。三軒茶屋映画劇場の姉妹館、松竹系の映画館として出発した。その後、名画座、日活ロマンポルノ、ミニシアター系と、さまざまな路線変更を経ながら営業。劇場正面にはカッパの絵があり、「カッパの映画館」として親しまれていた。跡地にはス

□「心霊スポットって噂も聞いたことがあるけど、ここで幽霊を見たことはないなあ」

さんちゃーこーじーいんしよくてんーがい
 【三茶小路飲食店街】「生活」三角地帯の3つの筋からさらに奥にある路地。舗装の剥がれた路面に、昔ながらの居酒屋が軒を連ねる。新規の飲食店舗が増えつつある三角地帯の中でも、戦後当時の風景を留めているエリアでもある。

さんちゃーでーだいでうげい【三茶de大道芸】「生活」正式名称「世田谷アートタウン 三茶de大道芸」。パントマイムからアクロバットなパフォーマンスまで、さまざまな大道芸人たちが三軒茶屋駅周辺の路上に集うフェスティバル。1997年に始まって以来、三軒茶屋の秋の風物詩としてたくさんの人で賑わう。

さんちゃーラテンフェスティバル【三茶ラテンフェスティバル】「生活」1984年にスタートし、例年夏に開催される、ライブパフォーマンス

ーパーやカラオケが入居する現代的なビルが建つ。

さんげんーのーちゃや【三軒の茶屋】「歴史」
 大道道（現・国道246号線）と世田谷道（現・世田谷通り）の分岐点にあった、信楽（後に石橋楼）、角屋、田中屋の三つの茶屋のこと。主に大山詣に向かう参拝客に向けて営業をしていた。その後、明治期に角屋が閉店。田中屋は火災で焼失したのち陶器屋に業種を変え、「田中屋陶苑」として現在まで残る。石橋楼は「茶寮イシバシ」として近代化を図りながら最後まで飲食を提供していたが、戦争末期の建物強制疎開令により閉店。

さんげんービル【三元ビル】「建物・施設」キヤロットタワーの正面から三角地帯に抜ける路地裏に建つ地上7階、地下2階の商業ビル。竣工は1966年、現在、カフェやバー、ダンススタジオなどが入居している。街の人の証言によると、元々この地にあった商店を整理して建てられたビルで、当初はビルの中には乾物屋や豆腐屋などの商店が連なっていた。

マンサや屋台ゲルメが楽しめるフェスティバル。茶沢通りを練り歩くサンパレードが目玉。

さんばんーがい【3番街】「生活」三角地帯を構成する路地の一つ。国道246号線沿いからの入り口には「3番街」の名前を冠したゲート調の看板と、それにぶら下がる黄色い提灯がある。「3番街」の名は、2筋を有するエコー仲見世から数えて3番目の通りであることなど諸説ある。

□「美味しい中華料理はないか？と尋ねて教えてもらった『五十番』。30年ほど前のこと。もう今はない」

□「昭和40〜50年代、祖母に連れられ、器を持参してうなぎを買いに来ていた。店の前でうなぎを捌いていて、ずっと見ていられた」

じ

したのやーしょうてんがい【下の谷商店街】「生活」三軒茶屋駅の北東、茶沢通りから東の路地

を入ったところにある商店街。関東大震災で被災した下谷区（現・台東区）の人々が農地であったこの地に移り住み、商店街が形成されていたのが、ルーツとされる。商店街の細い道筋は、かつての田畑に引き込む水路跡。

じぶんしーをーひもとく【**自分史をひもとく**】「イベント」 2026年1月31日、展示会場内で開催された、年表作成者・ライターのパンスを講師としたワークショップ。前半はレクチャーとして、パンスが作成した「三軒茶屋の歴史」「日本の都市の風俗史」を比較。戦後から現在に至るスナック、カラオケ、漫画喫茶といった時代ごとに流行する業態について、また居酒屋やファストフードなど、三軒茶屋のチェーン店の歴史を考察し、ひもといた。後半は参加者が街にひもづく「自分史」をアンケート形式で回答し、紹介。キャロ



ットタワー命名の秘密、今はない書店や三角地帯の商店といった個々人の記憶から記録がつむがれた。

じゃくずれーがわ【**蛇崩川**】「土地・エリア」世田谷区の馬事公苑付近に端を発し、目黒区中目黒駅付近で目黒川と合流する川。平成初期までに流域はほぼ暗渠化され、蛇崩川緑道として整備されている。三軒茶屋周辺では、大山街道の旧道と衝突する地点があり、そこには小さな祠が鎮座している。

しやしんーをーあつめる【**写真を集める**】「イベント」 2026年2月21日、第三者の個人的な写真を再構成する表現手法である「ファウンドフォト」にならない、「いつか誰かが見つけたとき、往年の三角地帯についての記憶を甦らせることができる写真」をテーマに、三角地帯を撮影しながら散策したワークショップ。ゲストとして、ミ



ユージシャン・映像作家のVIDEOTAPENUSICも参加。「三茶で遊んでみたくて」と語る若者から、長年地域の写真を撮り溜めている写真家まで幅広い参加者が集った。戦後復興期の白黒写真を携えて、撮影された場所が現在どうなっているかを辿り、同じ構図で写真を撮った。駐輪場や雑居ビルも、古写真を見れば市場や映画館だったりする。よく見てみると当時を偲ぼせる痕跡も、散策後は、過去と現在の写真を見比べながらデイスカッション。「現在何気なく見ている風景も、何十年も経つとガラッと変わってしまうかもしれない。そのことが実感できた」といった声もあった。

しやしんーさんかくーとーだいいーさんかく【**小三角と大三角**】「キーワード」三軒茶屋の三角地帯の範囲についてはおのおの意見が分かれる。大まかに、国道246号線と世田谷通りとの分岐点から、エコー仲見世、3番街、ゆうらく通りまでを指す「小三角派」と、小三角の路地群から千代の湯、三軒茶屋シネマ跡、さらに駒の湯の角までを含む「大三角」派に分かれるようだ。

しよしゅうわーじよしーだいがく【**昭和女子大学**】「建物・施設」三軒茶屋駅の東に本部キャンパスを持つ大学。1920年、小石川区（現在の文京区）にて創設された。その後戦禍により校舎を焼失。終戦もない1945年、陸軍駒沢練兵場のあった現在地に移転した。

●「私が幼稚園の頃に火事がありました。庭に火の粉が飛んできて、玄関のガラス戸が真っ赤に燃えていました。当時は『はとぼつぼ幼稚園』に通っていて、『立派ベーカーリー』でパンを買って、弁当として持って行ったことと一緒に思い出します。懐かしいです（70代以上・1958年まで9年間世田谷区在住）」

しんーじだい【**新時代**】「飲食店」愛知県の企業ファーズが全国に展開する居酒屋チェーン。看板メニューの「伝串」をはじめ、低価格帯のメニューを揃える。三軒茶屋店はキャロットタワー北棟に立地している。

●「1串50円という甘だれの効いたバリバリの皮串。大量に注文すると、その串は『ピラミッド』と呼

ばれ、まるでエジプトへトリップしたような感覚に陥ります。そして流し込むのはメガハイボール。この組み合わせを知ったものは「新時代」を歩んでいると言っても過言ではない」（40代・世田谷区外在住）

【す】

「すいどう」ーのーでんちゅうーばんごうふだ「水道」の電柱番号札」「道・交通／歴史」世田谷通り沿い「門井不動産」のある三叉路を「駒の湯」方面に向かった右手の電柱に掲げられている「水道」の文字がある番号札（番札）。この札のある電柱を辿っていくことで、過去の水道道が分かるという。

●「三角地帯の西端、世田谷通りに面した門井不動産の手前からまっすぐ延びるなめの道。そこに建っている電柱のネームプレート（番札）に「水道」とあり、それが環七との交差点まで続いています。ネームプレートはそこで変わりますが、ま

っすぐの道は「駒沢給水塔」まで続きます。さらにとどると、スーパード「OK新用賀店」の前の道に再び「水道」というネームプレートが再び現れます。これは大正2年に砦下浄水場からほぼ一直線に渋谷町に給水した渋谷町水道道を示しています。違う場所の電柱の、同じ名のネームプレートが歴史を伝えています」（電柱クロニクル・世田谷区外在住）

スーパード「アーヤング」商店・生活」世田谷通り沿い、三角地帯の端の方にある理容室。三軒茶屋にて1927年から営業しており、2027年で創業100年を数える老舗でもある。2026年現在、店内の一部を肉まん・たこ焼きのイトインができるショップにリニューアル中。

●「100年続いている理容室」（40代・世田谷区外在住）

●「開店した昭和2年、三茶は何にもない田舎だった。それから街とともにお店も発展したのだと、ご両親からお店を継いだという、現在の店主さんに聞きました」（30代・世田谷区外在住・三茶に

よく来る）

スーラ「飲食店」三角地帯の奥にある立ち飲みバー。カウンターにはたくさんのお酒が置いてあり、カクテルを含め様々なドリンクを提供してくれる。看板には「スペインバル」と書かれているが、現在はおでんやラーメンを提供するという証言がある。

●「開店したの頃、バイトしてました。まだあるようで感激！」（40代・島根県在住）

すずらんーどおり「すずらん通り」「生活」三軒茶屋駅前、世田谷通りの北側に伸びる、戦後のヤミ市を彷彿とさせる路地。三角地帯と同様に、飲食店が所狭しとひしめく。入り口には恵比寿天と大黒天をあしらったキョラクターに「喰うてかへんか？」と関西弁が添えられている。

●「作家先生が集まる店があった。新聞記者もその先生たちに会うために来ていたとか」

●「すずらん通りにあった中華屋「ヤンヤン」。上海焼きそばおいしかったなあ。1990年ごろに通いました。店はもうありませんが、ポイントカ

ード、捨てられずにいます」

【せ】

せたがやーきまよーケーブルーかさい「世田谷局ケーブル火災」『歴史』1984年11月16日正午ごろに発生した、太子堂の電電公社世田谷電報電話局近くのケーブルが火元になった火災。

17時間にわたって延焼し、翌日未明にようやく鎮火した。この火災の影響で、加入電話約89000回線が不通になった他、一部の銀行で預金の引き出しができないうなど、社会に様々な影響をもたらした。

●「火災により、世田谷局内の電話が不通になった。まだ携帯電話が普及していなかったため、世田谷通り等の歩道に電話機が並べられ、無料で電話できた（国際電話をした人もいた）。銀行サービスにも多大な影響があった」（60代・過去に世田谷区外在住）

せたがやーくーしょうこうーセンター「世田

谷区商工センター」【施設(過)】世田谷通り沿いにかつて存在した区営の公設市場。当時としては堅牢な建物で、1階には文房具店、ソフトクリーム屋、お菓子屋が入居していた。地下には魚屋、2階にはスポーツ用品店やレコード屋もあり、90年代頃まで地域の人々に親しまれていた。現在は建物は解体され、区営駐輪場として利用されている。

☐「90年代に行きました。このソフトクリームが人生で一番。とびっきりおいしかったです!」

せたがやくーぶんかーせいかつーじょうぼうセンターかいせつじゅんびしつ【世田谷区文化生活情報センター開設準備室】「建物・施設(過)」キャロットタワーが竣工する前に設置された準備施設。生活工房においては、翌年の「暮らしのデザインセンター」としての開設に向けて下準備を進めていた。

●「生活工房と世田谷パブリックシアターの開設準備を行っていた事務所のプレハブがあったと思います。プレハブからキャロットタワーに引越した時は、あまりに環境が違うので、びっくりした。

旧大山道でもある。国道246号線の元の道筋である新大山道は、大山詣が流行する中で、この道のショートカットとして整備された経緯がある。

せんとう【銭湯】「キーワード」三軒茶屋駅周辺には、地域の人々に親しまれてきた銭湯が複数存在する。

・富士見湯 駅から北側、太子堂中央街と下の谷商店街の交点に存在していた銭湯。広い館内と日替わりの薬湯が評判だった。2025年12月閉店。

☐「長年ありがとうございました。寂しい……」千代の湯 三角地帯の路地の奥にある銭湯。昭和の雰囲気の色濃く残すその建築にはファンも多い。コロナ禍により長期休業中。

☐「タオルを忘れると、番台のおばちゃんに首にかけてるタオルを貸してくれたなあ!」

☐「酔い覚ましにフラツと入浴していた銭湯。隣から『あっちい!』っておっさんの声がまたいいんだよな!」

・駒の湯 世田谷通りの路地に入つてすぐの、三角地帯の一番外れに位置する銭湯。テレビドラマ『サ道』

ました」(40代・調布市在住)

せたがやーせん【世田谷線】「道・交通」三軒茶屋駅と下高井戸駅を結ぶ東急電鉄の軌道線。1925年、玉川電気鉄道支線である下高井戸線として開業。1969年に玉川線が廃止されて以後、旧玉電から残る唯一の路線。2001年までは、玉川線で使用された路面電車タイプの車両が運行されていた。

せたがやーせんーのーかんばん【世田谷線↓の看板】「道・交通」3番街の突き当たりにある手書きの看板。かつての玉電の乗り換えの通り道としての名残でもある。豆商はたの次男が書いたという噂もある。

「豆商はたの

せたがやーどおり【世田谷通り】「道・交通」三軒茶屋駅前の交差点、国道246号線の分岐を起点として、町田市に至る都道。ポロ市の行われる世田谷代官屋敷のそばを通る歴史ある道筋であり、

で言及されたこともある。

☐「サウナ最高!熱いお湯と冷たい水風呂、サウナの演歌がよき!」

・弘善湯 駅から南側、栄通り商店街を抜けてすぐのところにある銭湯。宮造りの昔ながらの建築が特徴。

☐「エントツが目印!」

そ

そらーとーミルク【空とミルク】「飲食店(過)」エコー仲見世にかつてあったカウンターのみの小さなカフェバー。カレーからパフエまで、その日に応じてさまざまな料理を提供していた。

●「2025年6月閉店。エコー仲見世の目立つところにあつたのに、三角地帯民にはほぼ認識されていない、幻のような呑み屋。三茶の妖精かな?というおじさんが通う、ご飯のおいしい店だった」(40代・世田谷区在住)

【た】

だいきぼーこーりーてんぼーほう【大規模小売店舗法】「歴史」大規模小売店舗に対する商業活動の調整を行う仕組みを定めた法律。大型店の出店から個人店舗を守るために1973年に制定された。2000年に同法律は廃止。以後、大型店舗の開業が増えることになり、商店街の衰退の要因になった。

たいしどう【太子堂】「土地・エリア」世田谷区の名。三軒茶屋駅や世田谷通りの北側に位置する（三角地帯を含む側面は「三軒茶屋」）。域内にはキャロットタワーや西友などの大型施設が立ち並び、域内南北を走る茶沢通り沿いには多くの商店があり、たくさんの人で賑わう。地名の由来は、域内北部にある円泉寺の聖徳太子をまつる太子堂から。かつて「太子堂村」と呼ばれていた当時は、太子堂のある円泉寺周辺が村落の中心だった。

軒茶屋駅前の国道246号線と世田谷線の交点から下北沢を経て東北沢駅周辺までを結ぶ、全長約3キロの道路。名称の由来は三軒「茶」屋と下北「沢」から。三軒茶屋駅近くの通りは毎週日曜日の午後には歩行者天国になり、多くの人が行き交う。

□「今、すき家のあるところに『大志堂 ※表記ママ』という本屋があった。四軒ぐらいあつた本屋が全部なくなってしまった。」

□「茶沢通りの中ほどに『越後屋豆店』という小さな煎豆屋さんがあり、ピーナッツや甘納豆を売っていた。10年ほど前に閉店してしまいました。」

ちようえいーどごう【長栄堂】「商店」三軒茶屋の駅前、世田谷通りに面した位置に店舗を構える、1945年創業のハンコ屋。現在の店主は三代目。ルーツは浅草で代々の家業だった浮世絵を刷る木版屋まで遡る。空襲により浅草の店舗を焼け出されたことにより、現店主の祖父が当地に出店した。

タカノーようそうてん【タカノ洋装店】「商店」エコー仲見世の老婦人服店。大型スーパーの進出などにより雑貨や食品を販売する個人店が減りつつある中、現在でも開業当初のスタイルを貫いている。

たまがわーでんきーてつどう【玉川電気鉄道】「道・交通（過）」渋谷駅から二子玉川園駅（現・二子玉川駅）を結んでいた軌道線（路面電車）。元々は、多摩川の砂利輸送を目的に開通した。三軒茶屋駅は世田谷代官屋敷や松陰神社を通る支線・下高井戸線（現・東急世田谷線）と接続するターミナル駅として栄えた。1938年に東京横浜電鉄（現・東急電鉄）に合併。戦後、車社会の定着における交通渋滞を緩和するための首都高や鉄道（のちの田園都市線）の建設計画におされ、1969年に玉川線廃止。旧玉電の線路は世田谷線にのみ残る。

【ち】

ちやざわーどおり【茶沢通り】「道・交通」三

【つ】

つたやーさんげんちややーてん【TSUTAYA 三軒茶屋店】「商店（過）」全国に展開するTSUTAYAチェーンの店舗。CD・DVDのレンタル店であり書店。キャロットタワー完成当初の1996年から入居し、2026年1月に閉店するまで、三軒茶屋の文化的なスポットのひとつとして親しまれた。当初は現「ユニクロ キャロットタワー三軒茶屋とうきゅう店」の区画で開店。その後、現「セカンドストリート三軒茶屋店」の区画まで店舗を拡張し、ユニクロ側をレンタルフロア、セカンドストリート側を書店フロアとした。2023年からはレンタル事業を終了し、書店機能の後者の区画に集約して営業。2026年1月の契約満了に伴う閉館により、地域的大型書店は姿を消した。

□「無印、TSUTAYA、ユニクロをウロウロするのが私のお散歩ルーティンでした」

□「三茶のTSUTAYAは、歌手のALICEがファ

ンの子と朝までずっと恋愛相談をしていた伝説の場所。TSUTAYA、また復活してほしい……」

□「若い頃、深夜に入り浸っていました。レンタルビデオはかなりマニアックなものであって、夢中になりました」

つりぼり【釣り堀】「キーワード」三軒茶屋には複数の釣り堀が存在した。そのなかでもキャロットタワー北側の「三軒茶屋釣り堀」は平成になっても営業を続けていたが、2009年に閉業。その後、その建物を再利用した飲食店が営業を始めるが、現在は取り壊されている。

□「2000年、大学1年生の頃、三茶の釣り堀にきました。釣れなかったけど……」

□「釣り堀の後にできたバル、おいしかった！看板をそのままインテリアにしたり、釣り堀を活かした作りの店内だった」

□「子どもの頃、父ときました」

□「20年以上前かな？室内の釣り堀、あったような」

を相手にする業態上、トラブルはつきもの。マナーが悪い客は、出入り禁止を申しつけられることも。三角地帯で新規店舗をオープンすると、他の店でも出禁になった客がわらわらと来てその対処に追われる、と冗談のように語られる。

でんえんとしーせん【田園都市線】「道・交通」渋谷駅から神奈川県大和市の中央林間駅までを結ぶ東急電鉄の鉄道路線。渋谷駅から二子玉川駅まで走っていた路面電車の玉川線を代替する路線として1977年に地下鉄が開通。2000年までこの区間は「新玉川線」とも呼ばれた。三軒茶屋駅では東急世田谷線に乗り換えることができる。

【と】

とうきょうオリンピック【東京オリンピック】「歴史」1964年に開かれた日本初開催のオリンピック大会。駒沢公園が国立競技場に次ぐ第二会場に選定されたため、競技場の改修・新設や道路

【て】

デイスカウト・ショップ「キーワード」三軒茶屋には「セキゼン」「モリ」など、ネジ一本から食料品まで取り扱うデイスカウトショップが存在した。特に「セキゼン」は地域に数店舗展開しており、店舗のあった栄通り商店街を「セキゼン通り」と呼ぶ人も多かった。セキゼンの閉店とともに入れ替わるように開店した「ピカソ三軒茶屋店」も2024年に閉店している。

□「セキゼンは5号店までできたような。あちこちにセキゼンがあつて、さながら『セキゼン村』でした」

□「セキゼン、カムバック！シルバーのレジ袋が恋しい……」

□「80年代前半、ソニーのウォークマンを、モリで買いました。ペット用品も売ってたな」

でいりーきんし・できん【出入禁止・出禁】「キーワード」飲食店でひしめく三角地帯では酔客

拡張工事にたくさんの労働者が従事した。そのため、駒沢公園に近いターミナル駅である三軒茶屋駅付近もより活気づくようになった。三角地帯を中心に、飲食店や居酒屋が増えていくきっかけでもあった。

とえいーしもうまーアパート【都営下馬アパート】「建物・施設（過）」三軒茶屋駅から南方に位置する都営住宅群。かつての陸軍駒沢練兵場の跡地の一部に、満州からの引揚者などが暮らした「世田谷郷」が起源。当初は陸軍の兵舎をそのまま活用したものであった。その後、1958年から建て替えが始まり、団地へと姿を変えた。現在更なる建て替え、高層化が行われている。

トライストーン・アクティングラボ「建物・施設」芸能事務所「トライストーン・エンタテイメント」が直営する俳優養成所。

●「演技力を向上させるために、役者の卵たちが切磋琢磨し合う養成所。建物内は、受講生たちの熱気と意欲に満ちた空間となっている。私も芸を磨くために地方からはるばる一人でやってきた挑戦

【な】

者であり、いち受講生だ。ここから未来のスターが現れるかもしれない」(20代・世田谷区在住)

ながさき【長崎】

「飲食店」 なかみち通りの中ほどにある、1976年創業の老舗ちゃんぽん店。カウンターのみの小さい店ながら、本場・長崎で修行した本格的なちゃんぽんを求め多くの人が通う。

□「缶ビールを店内で売ってるスタイルに衝撃を受けた」

□「皿うどん、ちゃんぽんを注文する時に、スープを合わせて注文するのがオススメ」

□「あの狭さでのオペレーションがすごい。カウンターに置いてある無料梅干しも嬉しい。おやじ、体を大切に」

なかざと〜どおり【中里通り】

「道・交通」 三軒茶屋駅の南西、国道246号線から分岐する旧道。かつての大山道の道筋をそのまま残している。

新道建設による再開発からも逃れており、街道には「看板建築」の様式を残した商店が点在する。
「看板建築」

ナカミセ【生活(過)】

エコー仲見世の草野球チームの名称。仲見世の2階で居住しながら商売をすることが当たり前だった当時は住民同士の団結力も強く、よく草野球をして結束を強めていた、という証言がある。

なかみち〜どおり【なかみち通り】

「生活」 世田谷通りの南側に位置する商店街。国道246号線から東西に延びる道と、世田谷通りから南北に延びる道でできている。エコー仲見世など、いわゆる「小三角」と呼ばれる地区を取り囲むように成立しており、世田谷通りとなかみち通りの間の繁華街を「大三角」と捉える向きも多い。
「小三角と大三角」

【に】

にかい【2階】

「キーワード」 三角地帯に連なる商店の多くは、かつて店子の家族が2階部分を居住スペースとしていた。現在は物置として使われることが多いが、新たに入った店舗では2階までを店舗空間として活用する例もみられる。なお、エコー仲見世の2階部分はアーケードの構造の内側に隠れており、地上からその姿を確認することはできない。

にくーのーハナマサ【肉のハナマサ】

「商店」 関東中心に展開するスーパーマーケット。三軒茶屋店の入居するビルは、かつてこの地にあった三軒茶屋シネマの跡が色濃く残る。

●「筋トレ民御用達のスーパーマーケット。鶏むね肉2キロが、1000円台前半で購入可能という最強コストパド。店マークからも窺える闘争心むき出しの、雄牛のようなたたずまい」(40代・過去に世田谷区に25年ほど在住)

につきーをーかく【日記を書く】

「イベント」 2026年3月7日に開催された、写真家の金川晋吾を講師として招いたワークショップ。参加者全員で自己紹介した後、夜の三角地帯へと共に繰り出し、隣を歩く人と会話しながら路地を探索。その後展示会場にて、配られた紙にペンで日記を綴り、お互いに読み合ってから感想を共有した。看板のタイポグラフィ、店舗のドア、

駒の湯横のコインランドリーの三角形といった街の断片、「三角地帯は生活の中に飲み屋街が溶け込んでいる」という印象など、街への距離感もさまざまな参加者たちの視点から、多様な発見が生まれた。



【は】

パチンコ【キーワード】

三軒茶屋周辺にはかつて

多くのパチンコ店があった。ゆうらく通りでは、スマートボールや射的場といった小さな遊技場も存在していた。現在、パチンコ屋は2店舗のみ営業を続けている。

☐「昭和38（1963）年ごろはパチンコ屋にスマートボール、射的もあった。さながら温泉場の盛り場ようだった」

☐「栄通りのパチンコ屋でインチキして、怖い人に脅かされたなあ」

はなごーや【花吾屋】「商店」三角地帯の一角、

「肉のハナマサ」の隣にある花屋。小規模な店舗の外側には花や鉢植えが密集している。22時までと遅めの時間帯まで店を開けている。

●「三軒茶屋シネマ跡の裏にある花屋。色とりどりの季節の花が揃っていて、三角地帯のオアシスになっている。ハロウィンが近づくと、かぼちゃが置いてある」（10代・世田谷区在住）

はなびし【花菱】「飲食店」エコー仲見世内にある甘味処。近年まで、うなぎ屋の老舗として営業し

ていたため、看板には現在でも「鰻蒲焼」の文字が残っている。現在は炭火で焼いた手作りの団子が名物。あんみつやかき氷なども提供。

●「最高においしかったです☆」（40代）

【ひ】

ヒサモト「商店（過）」三軒茶屋にかつてあった洋菓子店。1940年に渋谷で創業したのち都内に数店舗展開し、1986年に三軒茶屋店の1店舗に集約。ドイツ帰りの三代目店主が作る生クリームが評判だったが、三代目の急逝により、2003年閉店。

☐「誕生日ケーキはいつも、ヒサモトのバイナップルーキでした」

☐「ヒサモトのケーキは今でも人生で一番うまいと思う。さつまいもそのままのスイートポテト、大好きでした」

ひやつけんーしようてんがい【百軒商店街】

「生活（過）」エコー仲見世の昔の名称だった、という証言がある。

【ふ】

ふじやーレストラン【不二家レストラン】「飲食店（過）」不二家は洋菓子を中心にした食品メーカーであり、レストランも運営。かつて三軒茶屋にあった「不二家レストラン」は昭和期にはまだ珍しかった洋食のレストランで、幼少期の憧れだったという人々も多い。レストランの閉店後、キャロットタワーにテイクアウトもできる「不二家」が開店したが、2009年に閉店。

☐「小学2年生の頃、不二家に行きました。憧れの銀皿、懐かしい！」

☐「今から40数年前、夫と不二家の2階でよくデートしました」

☐「子どもを連れて、よくランチしました！」

☐「60年代後半ごろ、不二家でハンバーグやステーキを食べました。思い出のレストランです」

「ふつうのしようてんがい」【普通の商店街】「キーワード（過）」

●「今となつては飲み屋ばかりになってしまったが、それでも豆屋さんなど、まだ数軒は飲み屋以外の普通の商店が残っている。40〜50年前はもっと普通の商店街で、熱帯魚も売ってる金魚屋や、段飾りのひな人形一式を飾って売っているおもちや屋さんがあり、見に行くだけでも楽しみだった。三角地帯は飲み屋だけではない」（60代・生まれてからずっと世田谷区在住）

●「プラタモリ【キーワード】タレントのタモリが街を歩きながら、知られざる歴史や人々の暮らしに迫るNHKの番組。2025年6月7日放映回では、三軒茶屋が舞台となり、三角地帯の歴史等を掘り下げる内容であった。」

ぶんかーデパート【文華デパート】「建物・施設（過）」戦後の三軒茶屋の賑わいを象徴する民営市場。文華マーケットとも。路面電車である東急玉川線時代の三軒茶屋駅の付近に立地し、金物屋からうどん屋までさまざまな店舗が所狭しと並んでいた。1970年代の不審火による火災を経て、現在は複

数の店舗が入居するブンカビルとなっている。
 □「小学生の頃、ここに市場のような店の連なりがあった。6年生の時、火事で焼けてしまった」

ほ

ほんや・ふるほんや・とーえいがかん
 【本屋・古本屋と映画館】「イベント」 2026年3月17日、展覧会場内で開催された、編集部・竹中が企画したミニイベント。正式名称は「三茶にあった本屋・古本屋や映画館を振り返り、これからの三茶・三角地帯にこんなところがあったらいいなを想像する会」。手元に配られたリストをもとに、かつて三角地帯周辺にいくつもあった古本屋・本屋、映画館について、参加者同士で覚えていることを共有した。三軒茶屋シネマ、三軒茶屋中央劇場 三軒茶屋映画劇場、三軒茶屋大映があった場所について地図を観ながら確認し、なかには三軒茶屋シネマに訪れたときの写真を持参した参加者も。また、かつて2階建てだった頃の甲文章書店や、キャ

ロットタワー内にあったという映画・演劇の本を扱っていたコーナー、ブックマートなど古本チェーンについて、映画社の現在についても盛り上がる。そして街の本屋として根付いていた西友のリブプロや、文教堂書店、閉店したばかりのTSUTAYA三軒茶屋店の思い出も寄せられた。後半は、街の文化を絶やしたくないという参加者の思いや、あったらいい場所についてのアイデアが交わされた。



ま

まめしやうーはたの【豆商はたの】「商店」
 戦後のヤミ市の時代に開業し、創業70周年を超える老舗豆菓子店。ピーナッツから甘納豆まで、豆菓子の中で幅広く展開。店内にはエコー仲見世と3番街

を繋ぐ路地が通っている。

●「母に連れられて三角地帯にある豆屋に行くのが好きでした。そこでよく、甘納豆を買ってもらいました」(50代・世田谷区在住)

まんがのーとしゃかんーガリレオーさんげん

ぢややてん【まんがの図書館ガリレオ三軒茶屋店】「建物・施設」 1998年に創業。世

田谷通り沿いにある、地域では現在唯一の漫画喫茶で、オーナーがセレクトした約4万冊の漫画を収蔵。フルオープンスタイルの図書館のような雰囲気。特徴で、コーキングスペースとして利用する客も多い。

□「ガリレオの現在の経営者は元々アルバイトスタッフ。経営危機の際に『店を辞めるなら私がやる!』と言って、店を引き継いだんだって!」

□「中学生の時に行った、人生初の漫画喫茶。一人で行っても、怖くなかった。中でカップラーメン食べました!」

み

みどりーや【緑屋】「商店(過)」 三軒茶屋駅

近くにかつてあった月賦制の百貨店。1946年に開業した太子堂の家具屋「岡本商店」がルート。

1957年に当時としては珍しい鉄筋コンクリート造の地下1階、地上5階建の店舗を三軒茶屋にて開店。その後、渋谷をはじめ東日本の各都市で様々な店舗を展開した。その後、西武セゾングループと合流。三軒茶屋の店舗も1985年にはam's西武三軒茶屋店となる。1998年にはスーパー・西友三軒茶屋店に転換し、現在に至る。

●「叔父が東急の役員から定年退職して緑屋に行ったら亡き母が言っていた。すばらしい叔父さんでした」(72歳・ずっと世田谷区在住)

□「屋上に遊戯施設があった。セルフ綿菓子機でもく作っていた!」

□「緑屋からam's西武に変わったという流れが印象的でした。『デパートがある都会』として、三軒茶屋の象徴的な存在でした」

【め】

めあおーぶどう【目青不動】「歴史」 竹園山最勝寺教学院の通称。1311年創建と伝えられる古刹であり、明治年間の1909年に青山から現在の古地に移転。境内には東京の五色不動の一つである目青不動が安置されている。円仁（慈覚大師）の作といわれるその不動明王像は秘仏であり一般公開はされていない。代わりに堂内では、青銅製の前立不動明王像を目にすることができ。

【も】

ももたろう【商店（通）】 三角地帯・エコー仲見世内にかつてあった肉屋。コロッケなどの惣菜を非常にリーズナブルな値段で販売していた。

●「おいても一個30円とか…。とてもおもしろかった

襲の際に三軒茶屋周辺が狙われる要因となった。

ヤミーいち【ヤミ市】「キーワード」 闇市とも。

非合法に設けられた市場。戦後の混乱期に建物の強制疎開や空襲の焼跡などの空地において開かれ、食糧や物資不足にあえぐ人々で賑わった。強制疎開や空襲のため空地が広がった三軒茶屋一帯にもヤミ市が大規模に開設された。三角地帯エリアは、戦後にヤミ市として再出発した場所が商店街化したもののがその始まりとされる。

●「昭和9（1934）年生まれの父が生前語っていたところでは、三角地帯にあるヤミ市の雰囲気は今に至るまであまり変わっていないとのこと。昔は246のガストのところとハナマサの隣に日活の映画館があって、近寄り難い雰囲気でしたが、平和になりました」（50代・50年近く世田谷区在住）

す」（50代・町田市在住。実家が三茶で三代住んでいます）

【や】

やぐらざわーおうかん【矢倉沢往還】「歴史」 江戸時代に整備された街道。江戸城から相模国（現・神奈川県）を通り、駿河国（現・静岡県）沼津までを結ぶ。名称の由来は、関東の関所として箱根関所と並び重要視された、矢倉沢関所を通ることから。江戸時代中期の大山詣の流行を受けて、この道は「大山道」とも呼ばれることになる。

↑大山道

やまのてーだいくうしゅう【山の手大空襲】

「歴史」 1945年5月25日、第二次世界大戦末期の米軍による焼夷弾を用いた大規模な無差別爆撃。3月10日の東京大空襲に続く大規模な空襲により、三軒茶屋から太子堂、池尻まで焼け野原になった。付近には駒沢練兵場などの陸軍施設があり、空

【ゆ】

ゆうらくーどおり【ゆうらく通り】「生活」

三角地帯を構成する路地の一つ。ヤミ市ながらの小さな区画に多くの飲食店がひしめく。老舗の焼肉屋をはじめ、タイ料理やジギスカンなどの新しい店舗も見受けられる。「ゆうらく」の名は、形成当時、パチンコ店などの娯楽店が軒を連ねていたことから。

□「この辺りの2階の店が飲んだけど、もうどこかの店かわからない。」

□「確かこの辺りの角のバーへ、大学教授が連れてってくれた。70歳近くで初めて。男の人はへべれけになるほど、ストレスも溜まると知る、そんなバー体験もよかった」

□「二十歳の誕生日に、ずっと夢だった『バーで一人飲み』を決行した！」

【よ】

よいづる【酔鶴】「飲食店(過)」なかみち通り

沿いの路地にある、カウンスターのみの小さな居酒屋。この地で60年以上営業しているという、三角地帯の中でも最も歴史ある飲み屋の一つであったが、2022年3月末に閉店。

●「創業60年以上、店主は80歳を超える老舗店舗。そこには計り知れないものが存在しているが、その大半は目に見えない。同業の大先輩でもある店主とは現在の話、家庭の話、商いの話、体力のことなど、話は尽きない。料理の味や盛り付けはいわば「自分の中にはない、故郷のばあちゃんのおかず」という風情だ。自分の中にはないはずの、原風景のイメージが自然と体に染み込んでくる。そして、ゆつくりと時間が過ぎていく。酔鶴にいきたい。いかねば」(40代・世田谷区在住)

●「三角地帯の外れにある老舗の呑み屋。店主が一人で切り盛りしている。60年以上続くというこの店では、昭和の呑み屋の雰囲気を感じることができる。カ

ウンターの奥に昔の世田谷の写真集など、貴重な資料もある」(20代・世田谷区在住)

※コメントは2022年2月、閉店前に寄せられたもの。

よくーあさーのみ【翌朝飲み】「キーワード」

三角地帯で時折あるという、夜通しのみならず翌日まで酒を飲み続けた状況。

●「三軒茶屋、特に三角地帯には、人がいれば永遠にやっている店が多くて、気づいたら朝になったり昼になったりすることも……」

よねやまーしようてん【米山商店】「商店(過)」

三角地帯のゆうらく通りにかつてあった衣料品店。テレビ東京の番組「モヤモヤさまぁ〜ず2」の2009年1月9日放送回にて登場した。番組内では、店主は60歳から絵を描き始め、描いた絵はラジオ番組に投稿していると語っていた。

●「国道246号へ抜ける道にあった店内前に物干しがあり、そこへ(自身で描かれた絵が吊り下がっていた。テレビ番組「モヤモヤさまぁ〜ず2」内で、さまぁ〜ずさんに突込まれていたのが印象

的」(40代・世田谷区在住)

【り】

りぐくんーじゅういーがっこう【陸軍獣医学

校】「建物・施設(過)」池尻から三軒茶屋周辺に所在していた陸軍施設群の一つ。獣医部将校の養成を目的として、軍馬や軍犬の取り扱い方の教育や研究を行っていた。終戦により廃校。跡地には日本装蹄学校が開校。同校は駒場学園高等学校に改称された後も、1994年まで馬の装蹄師の教育を続けた。

【わ】

わたしたちーはーなげーさんちやーというー

ぬまーにーハマったのか【私たちは、なげ三茶という沼にハマったのか】「イベント」2022年2月6日、展示会場内で開催された、編集部・鷺尾が主催のミニトーク。上京後、10

年以上にわたって三角地帯

の飲み屋に通い続ける面々と共に、三軒茶屋・三角地帯の「夜の顔」の魅力に迫った。ゲストには立ち飲み

屋「霧の中の風景」の常連である村橋愛と山崎龍馬の2人が参加。語られたのは、三軒茶屋周辺の他の飲み屋



街との比較、三角地帯に集まる人々の性質といったソフト面から、三角地帯を構成する建築物などのハード面の魅力まで。三角地帯に通い詰めた「抜け出せなくなってしまう」人たちならではのトークが、この街や店、人につながるエピソードを交えて練り広げられた。

三軒茶屋 大三角地帯展 概要

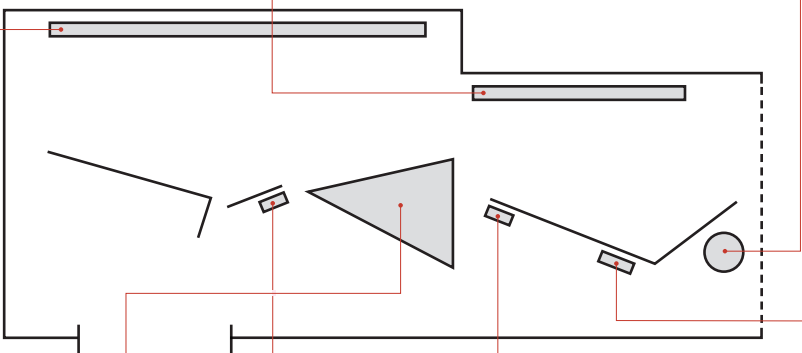
2026年1月20日から3月22日にかけて開催された本展は、生活工房ギャラリーのリニューアル前最後の展示となりました。壁面一帯の「事典」と、白地図に來場者がコメントを付箋で寄せる「マップ」をはじめとするさまざまなコーナーを設置。持ち寄りいただいた写真や投書などが随時追加され、白地図はもはや元の地図が見えない程の密集地帯に。本書には集まった膨大な「声」を抜粋・編集したのも収録しています。

●**アーカイブ映像**
8ミリフィルムをデジタル化して公開しているウェブサイトで「世田谷クロニクル」から、1969年、廃線直前の玉電を撮影した『消え行く玉電』を常時放映していた。

●**物語の自動販売機**
@三軒茶屋
株式会社トーハンが開発した物語の自動販売機。文学作品などから三軒茶屋・三角地帯にまつわるさまざまな「物語」がランダムに印刷された。

●**大三角編集部宛投稿ポスト**
來場者に、三軒茶屋・三角地帯にまつわる新情報を投函していただくためのポスト。寄せられた情報は大三角編集部で確認の上、一週間程度で展示に加えられていた。会期中にはプリンターも導入され、その場で写真データをいただいて展示に追加した。

●**大三角地帯マップ**
三軒茶屋・三角地帯に紐づくさまざまな記憶を重ねていく地図。來場者それぞれの場所の記憶を付箋に綴り、白地図に貼り付けてもらった。



●**三茶文庫**
三軒茶屋・三角地帯に焦点を当てたさまざまな書籍・雑誌を集めたコーナー。文芸作品や、ありし日の風俗を伝える資料、情報誌などを用意した。

●**大三角地帯事典**
三軒茶屋・三角地帯にまつわる事典。本展の会期中、追加項目を來場者に募集した。本書はそれを反映させた増補版。

●**ワークスペース**
來場者から三軒茶屋・三角地帯にまつわる情報を募集するためのスペース。

関連イベント一覽

- 1月25日(日)
酒場の話を聞く「酒場にまつわるトーク」(P.18)
講師…パリックコ(酒場ライター)、塩見なゆ(酒場案内人)
- 1月31日(土)
自分史をひもとく「年表十事典ワークショップ」(P.20)
講師…パンス(年表作成者/ライター)
- 2月5日(木)
三角地帯のルーツを知る「開市にまつわるトーク」(P.12)
講師…石樽督和(関西学院大学建築学部准教授/中央研究院臺灣史研究所訪問学人)、金谷匡高(法政大学江戸東京研究センター客員研究員/昭和女子大学歴史文化学科非常勤講師)
- 2月6日(金)
ミニトーク「私たちは、なぜ三茶という『沼』にハマったのか」(P.30)
ファシリテーター…鷲尾諒太郎(大三角編集部)、ゲスト…山崎龍馬、村橋愛
- 2月7日(土)
三角地帯を歩く「古地図でめぐる三角地帯」(P.15)
講師…男鹿芳則(前世田谷トラストまちづくり理事長)、金

谷匡高(法政大学江戸東京研究センター客員研究員/昭和女子大学歴史文化学科非常勤講師)

- 2月14日(土)
会場を作る「三角地帯でエレメントを探す」(P.38)
講師…荒木源希(建築士/モクタンカン株式会社)
- 2月21日(土)
写真を集める「29年後のファウンドフォト」(P.20)
ゲスト…VIDEOPHENUSIC(ミュージシャン/映像作家)、進行…篠原謙(TISSUE Inc.)
- 3月7日(土)
日記を書く「日記ワークショップ」(P.21)
講師…金川晋吾(写真家)
- 3月17日(火)
ミニトーク「三茶にあった本屋・古本屋や映画館を振り返り、これからの三茶・三角地帯にこんなところがあつたらいいなを想像する会」(P.31)
ファシリテーター…竹中万季(大三角編集部)
- 3月22日(日)
クロージングイベント「生活工房ギャラリーを見送る」(P.2)

※マークのあるものは、生活工房ウェブサイトの「レポート」でイベント内容を紹介予定です。ぜひご覧ください。



写真：富澤大輔

三軒茶屋

大三角地帯事典

2026年4月30日発行

編集 大澤景 (大三角編集部)

篠原繭 (TSSUE Inc.)

執筆 シヤラポア野口 (大三角編集部)

編集協力 鷺尾諒太郎 (大三角編集部)

竹中万季 (me and you / 大三角編集部)

デザイン 北岡誠吾

企画 桜井祐 (TSSUE Inc.)

発行 公益財団法人せたがや文化財団

生活工房

印刷・製本 株式会社山田写真製版所

協賛 株式会社東急コミュニティー

本書および本展覧会は、世田谷区三軒茶屋に位置する通称「三角地帯」の記録プロジェクト第三弾です。『三軒茶屋・三角地帯△のはなし／△の地図』(2023年度)、『三角地帯のはじまりを辿る FIELD NOTE』(2024年度)に続く取り組みとして、展覧会とその副読本である本書を制作しました。生活工房ウェブサイトを「広報物」ページ (seagaya-ldc.net/download/) 内の「生活工房アニュアルレポート」から、PDFデータをご覧いただけます。

世田谷文化生活情報センター

生活工房

Lifestyle Design Center



大映
七人の侍の男
七人の侍の女

大映
七人の侍の男
七人の侍の女

大映
七人の侍の男
七人の侍の女

大映
七人の侍の男
七人の侍の女

大映
七人の侍の男
七人の侍の女

飲料 佐々木

大映
七人の侍の男
七人の侍の女

大映
七人の侍の男
七人の侍の女

三軒茶屋
大
三角
地帯展

POSTCARD



三軒茶屋 大三角地帯展 関連イベント「写真を集める | 29年後のファウンドフォト」
ワークショップにてVIDEOTAPEMUSIC撮影

[表] 三軒茶屋東映（現在の肉のハナマサ・三軒茶屋 2-14-6）、
世田谷中央劇場（現在のカラオケベスト10三軒茶屋店・三軒茶屋 2-14-5）周辺
1961年撮影／提供=世田谷区立郷土資料館

服地と毛糸

BUNKADEPART

文華デパート

6月29日 → 7月14日
中元福引大売出し

共服地綿



三軒茶屋
大
三角
地帯展

POSTCARD



三軒茶屋 大三角地帯展 関連イベント「写真を集める | 29年後のファウンドフォト」
ワークショップにてチ・テイ撮影

[表] 文華デパート (現在のブンカビル・太子堂4-23-2) 周辺
1958年撮影 / 提供=世田谷区



三軒茶屋
大
三角
地帯展

POSTCARD



三軒茶屋 大三角地帯展 関連イベント「写真を集める | 29年後のファウンドフォト」
ワークショップにてユ・ニアン撮影

[表] 三軒茶屋交差点(現在のカラオケビッグエコー三軒茶屋駅前店・三軒茶屋2-13-14)
周辺 1960年撮影/提供=世田谷区立郷土資料館



三軒茶屋
大
三角
地帯展

POSTCARD



三軒茶屋 大三角地帯展 関連イベント「写真を集める | 29年後のファウンドフォト」
ワークショップにてVIDEOTAPEMUSIC撮影

[表] 三軒茶屋交差点 (現在の三軒茶屋交番・太子堂4-22-1) 周辺
1961年撮影 / 提供=世田谷区